2006年 社会・環境報告書

Social and Environmental Report

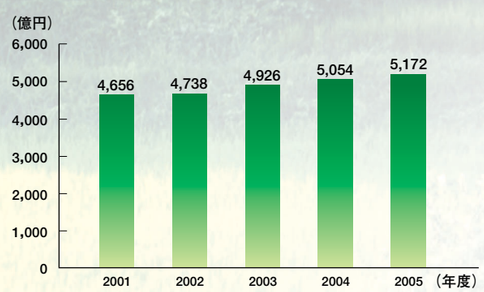
地球環境にやさしい会社を目指します

伊藤ハム

会社概要（2006年3月現在）

会　社　名	**伊藤ハム株式会社**
設　　立	1948年（昭和23年）
創　　業	1928年（昭和3年）
本社事務所	兵庫県西宮市高畑町4番27号
代　表　者	代表取締役社長　河西 力
資　本　金	224億1,500万円
売　上　高	5,172億7,500万円（連結）
連結対象会社	連　結　子　会　社／42社 持分法適用関連会社／12社
従業員数	2,126人（連結：5,493人）
主な事業	●食肉加工品の製造及び販売 ●食肉の加工及び販売 ●調理加工食品、惣菜類の製造及び販売 など

売上高の推移（連結）



表紙のことば

［コウノトリ］

兵庫県豊岡市で飼育されていた野生最後のコウノトリが死んだのは1986年の2月でした。それから19年後の昨年9月、旧ソ連産の6羽の幼鳥から始まった人工繁殖計画は見事に実を結び、5羽のコウノトリが再び豊岡の空に放たれました。周辺の農家も農薬の使用をやめ、自然環境の維持に協力するなど、多くの人たちに見守られながら、よみがえった白い翼は今日も力強く青空を舞っています。

写真提供：豊岡市立コウノトリ文化館

INDEX

会社概要／表紙のことば ……1
「2006年 社会・環境報告書」について ……2
ごあいさつ ……3

○経営方針
社是／企業理念／コンプライアンス ……5

○社会性報告
伊藤ハムグループ経営ビジョンより
1. お客様とのかかわり ……8
お客様の健康と豊かな食文化への貢献
2. 自然保護活動 ……9
森林保護活動　ーこうべ森の学校／社会貢献活動
3. 労働安全衛生と健康づくり ……13
労働安全衛生／健康づくり

○環境報告
環境宣言／基本理念／行動指針
1. 伊藤ハムの事業活動と環境とのかかわり ……15
2. 第2次中期環境目標の取り組み結果と自己評価 ……17
3. 環境保全活動の沿革 ……18
4. 環境マネジメント ……19
環境マネジメントの推進組織／環境監査の実施／ISO14001認証取得／グリーン購入の推進
関係法規及び法の遵守／環境管理へのお問い合わせ／緊急時の対応策／環境会計
5. 環境負荷低減の取り組み ……23
省エネルギーの取り組み／廃棄物の削減と有効利用
温室効果ガスと化学物質・水質汚濁物質の排出抑制／その他の環境負荷低減活動
6. 環境コミュニケーション ……27
情報開示／従業員教育・地域とのコミュニケーション

○環境データ集
伊藤ハムグループの環境データ ……29
サイトデータ（伊藤ハム・関連会社） ……33

○伊藤ハムグループはさまざまな場所で
環境をまもる活動をしています ……37

「2006年 社会・環境報告書」について

編集方針

2000年から「環境報告書」を発行し、今回で7回目の発行となります。
2005年の報告書からは、社会的側面の記載を充実させ、タイトルを「社会・環境報告書」としました。
本報告書は、伊藤ハムグループの社会活動や環境保全活動の取り組み内容とその結果を誠実に分かりやすくお伝えし、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションをより一層深めることを目的に発行しています。
より多くの皆様にお読みいただき、伊藤ハムグループの社会活動、環境保全活動をご理解いただけるようにページ構成、写真、図表などの表現の工夫に努めました。
是非、本報告書をご高覧いただき、活動や課題に対して忌憚のないご意見・ご要望を賜り、今後の社会活動、環境保全活動に生かしたいと思います。
報告内容については、環境省「環境報告書ガイドライン（2003年度版）」を参考にしています。

対象範囲

◇報告対象組織　基本的には伊藤ハム株式会社の取り組みを報告していますが、一部の報告ではグループ会社についても取り上げています。
＊エネルギー、廃棄物、大気、水域への排出などにかかわる実績については、伊藤ハムの生産8工場とグループのハム・ソーセージ生産主要3工場のデータを集計しました。
伊藤ハム株式会社：九州工場、神戸工場、六甲工場、西宮工場、豊橋工場、中部プラント、東京工場、船橋工場
伊藤ハムデイリー株式会社：東北工場、小樽工場
伊藤ハム食品株式会社：小矢部工場
＊サイトデータなど一部の項目では、サンキョーミート株式会社、伊藤ハム物流株式会社の取り組みについても掲載しています。
◇報告対象分野　事業活動にともなう環境的側面の計画・取り組み・結果を中心に、社会的側面についても報告しています。
◇対象期間　基本的には、2005年度（2005年4月1日～2006年3月31日）の取り組みを報告していますが、一部では2005年度以前・以降についても報告しています。

ごあいさつ

伊藤ハムグループでは、「事業を通じて社会に奉仕する」を社是とし、創業以来、社会から信用される企業であり続けるために、事業分野はもちろんのこと、社会貢献活動、地球環境への配慮などの分野においても、社会の一員としての責任を果たせるよう、さまざまな取り組みを実践してまいりました。

しかし、昨年、輸入豚肉の関税法違反という不祥事を起こしました。このことでステークホルダーの皆様方にご心配、ご迷惑をおかけしましたことにつきまして、誠に申し訳なく深くお詫び申し上げます。

この事件を起こしました点を真摯に反省し、一日も早く皆様方からの信頼を回復して、CSR（企業の社会的責任）のレベルをより高めるべく、伊藤ハムグループあげてコンプライアンス徹底を最重要課題とし、企業倫理の遵守を基本に、本業はもちろんのこと、環境保全活動においても誠実な仕事に努めるとともに、社会貢献活動にも積極的に取り組んでまいります。

なお、食品を取り扱う企業としてその社会的責任を果たすためには、安全で高品質の商品を鮮度の良い状態で皆様にお届けできる仕組みの構築に努め、お客様に「安心」していただくとともに、お客様から“おいしい笑顔”を見せていただけるように、そしてお客様の健康と豊かな食文化に貢献するため、食育の考え方も取り入れた「食」に関するさまざまな情報提供にも取り組んでまいります。

ところで、企業がその社会的責任を果たしていくためには、従業員の社会への参画意識や帰属意識を高めることが必要不可欠であると考えております。その対応の一環として、社会貢献活動におきましては、「社会貢献活動の理念と方針」を定め、それに基づいた取り組みを進めてまいりました。

具体的な活動をご紹介いたしますと、森林保護を市民の手で行う「こうべ森の学校」への活動資金の提供と従業員ボランティアの派遣を継続して行い、海岸や河川、湖沼など水辺のクリーンアップ活動は年々活動範囲を広げて取り組んでおります。そのほかに、地域の学校に出向いて行う環境教育への参加や自主プログラムで行う自然体験学習、ユニセフ支援活動など、将来を担う子どもたちへの支援活動も行っております。また、従業員の社会貢献活動への参画を促すために、毎年「社会貢献推進期間」を設けるとともに、ボランティア体験学習やボランティアセミナーを開催するなど、従業員のボランティア・マインドの醸成にも継続して取り組んでおります。

また、近年の環境問題は、地球温暖化、オゾン層の破壊、資源の枯渇、海洋汚染など地球規模の問題から、事業活動に伴って発生する廃棄物排出量の増大、騒音、悪臭など身近な問題まで多岐にわたっており、これらの課題は伊藤ハムグループの事業活動にとっても決して無関係ではありません。これらの問題に対処するため、伊藤ハムグループでは、1999年に定めた「環境基本方針」に基づき、環境汚染や環境事故の未然防止と環境負荷の低減を考えた管理の強化に取り組んでまいりました。

このような中、2005年2月に京都議定書が発効し、地球温暖化の防止のための二酸化炭素削減の取り組みもいよいよ本格化し、2006年4月には、「改正省エネルギー法」が施行されて、地球温暖化防止活動も待ったなしという状況でございます。伊藤ハムグループでは、地球温暖化の問題は、国、事業者、そして個人がそれぞれの立場でその役割を果たす必要がある大きな課題であるとの認識に立ち、地球環境問題の解決に寄与するために、環境保全への取り組みをより一層強化し、さらに成果が上がるように取り組みを進めてまいります。

今後も、コンプライアンス、社会貢献活動、環境保全の取り組みを通じて、企業の社会的責任を果たし、ステークホルダーの皆様方からの「信用」と「信頼」を高め、企業価値の向上に努めていきたいと考えておりますので、この報告書を通じて伊藤ハムグループの社会貢献活動及び環境保全活動と、その成果に対するご理解、さらには皆様からの忌憚のないご意見、ご鞭撻を賜れば幸いに存じます。

2006年6月

代表取締役社長

河西 力

経営方針

伊藤ハムグループは、社会から信頼される企業であり続けるために、事業分野はもちろんのこと、地球環境への配慮、企業倫理の遵守、社会貢献活動などの分野においても、社会の一員としての責任を果たせるように努力します。

伊藤ハムグループのメッセージは「あふれる笑顔」です。安全・安心な商品をご提供するのはもちろんのこと、企業精神である「強く、正しく、逞しく」を固く守り、楽しさや安らぎ、喜びを感じていただけるような、明るく元気いっぱいの輝く企業を目指します。

社　是

事業を通じて社会に奉仕する

企業理念

お客様（顧客）の「信用」と「信頼」から「安全」と「安心」が生まれます。「安心」こそが伊藤ハムブランドのすべてです。ブランド力を日々強化し、企業価値を高めていくことが社会的貢献であり私達の使命です。

顧　客
・お客様が求める「安全・安心」と「品質・鮮度」の高い商品を供給します。
・お客様に対する提案力の向上とスピーディーな対応を実践します。

株　主
長期的な企業価値の向上を目指し、透明な経営情報を開示します。

伊藤ハム グループ

従業員
一人一人が企業活動を通じ、社会への貢献を認識し、自己実現できる活力ある職場を創ります。

環境・社会
環境に配慮し、その保全と社会との共生を図る努力を持続的に実践します。

グループ経営ビジョン

グループ基本理念に基づき将来の姿として次の3つのことを目指します。

1.「コーポレートブランドを高め続ける企業を目指します」
顧客満足を高め続けるだけでなく、株主を重視した経営を行い、タイムリーなディスクロージャーを行います。また、地球環境への配慮と社会貢献活動を大切にして社会との共生を図ります。

2.「利益ある成長を続け企業価値の最大化を目指します」
マーケティング力を高め、時代の変化に対応した新たなビジネスモデル、商品開発に挑戦するとともに、各部門の技術の深耕により、品質と安全性をより一層高めます。また外部環境に左右されない利益体質の確立を図るため、ローコスト経営を推進し、資産効率とコストパフォーマンスを高める経営を行います。

3.「チャレンジ精神の高揚と活力ある企業風土づくりを目指します」
人事の流動化、人材育成、能力開発を促進し、個人のスキルを重視するとともに女性の能力を活用し、活力ある企業風土を醸成します。同時にフラットでスリムな組織により、ムダを省きスピードを重視した経営を目指します。

コンプライアンス

ステークホルダーの皆様方からの信頼を高め、健全で誠実な企業経営を行う上で守るべき考え方を「企業倫理規範」として策定しています。企業価値の向上のためには、企業倫理の高い公正な企業経営を徹底することが基本であると考え、CSR（企業の社会的責任）とコンプライアンス（企業倫理の遵守）の強化に取り組んでいます。

企業倫理規範

1. 公正な行動
伊藤ハムグループは、会社が社会の公器であるとの自覚と責任のもと、常に社会的良識に沿って公正に行動します。

2. 倫理観と遵法の精神
常に遵法を心がけ、確固たる倫理観をもって誠実に事業活動を行います。

3. 関係法令の社内徹底
事業活動に必要な関係法令の収集とその理解に努め、その遵守を確実にするため、社内規程の制定と教育・アナウンスなどを通じて社内徹底を図ります。

4. 法令違反の早期是正と厳正対処
業務遂行活動が関係法令や社会的良識に反する場合は、速やかにその違反状態を是正し、再発防止に努めるとともに、違反行為に対して厳正に対処します。

コンプライアンス・ハンドブック

推進組織（CSR委員会）

委員長	島田　恒（京都文教大学教授）
委員（順不同）	堅正　憲一郎（監査役/弁護士） 池村　昌人（伊藤ハム労働組合中央執行委員長） 太田　勲（株式会社菊水代表取締役社長） 藤原　俊夫（伊藤ハムCSR推進本部長）
事務局	CSR推進本部・監査室

適切な情報の開示及び共有化

従業員にコンプライアンス・マインドを浸透させ、日常業務の中で実践するために、周知・啓発活動を行っていますが、徹底を図るために社内イントラネットや社内報を使ってコンプライアンスに関する情報を開示しています。

社内イントラネットの画面

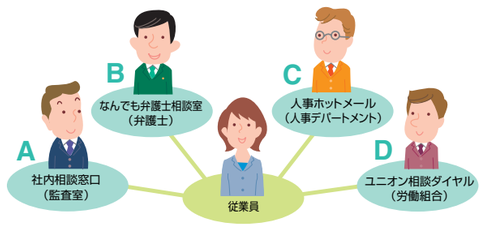
従業員教育

従業員のCSRやコンプライアンスに対する意識を高め、行動に結びつけるために、CSR講習会、新入社員研修、階層別研修や所長会議や店長会議など、さまざまな場面でコンプライアンスについての教育を行っています。

研修風景

相談窓口の設置

違法行為、社内ルール違反や社会規範からの逸脱を見かけたり、疑問を感じた場合には、まず上司に報告することを基本としています。しかし、それが難しく従業員がコンプライアンスに関することで困ったとき、悩んだときの相談先として次のような窓口を設置しています。



コンプライアンスに関する規程の整備

コンプライアンスに関するルールを明確化し、従業員に周知するためにコンプライアンスに関する規程の整備を進めています。

なお、相談窓口の対応手順や通報・相談者の保護などについては、2003年10月に設けた「社内通報規程」に詳細を規定しています。

- コンプライアンス推進規程
- 社内通報規程
- 内部者取引管理規程
- 個人情報取扱規程

コンプライアンスデー

従業員にコンプライアンス・マインドを浸透させるために、毎年9月1日を「コンプライアンスデー」と定め、標語の募集、アンケートの実施やポスターの掲示を行っています。

意識調査の実施

コンプライアンス・マインドの浸透状況を把握し、推進活動に役立てるとともに、従業員にその結果を報告し、各職場での実践につなげています。

伊藤ハムグループ経営ビジョンより

コーポレートブランドを高め続ける企業を目指します

○ 限りなく顧客満足を高め続けます。

○ 株主を重視し、タイムリーなディスクローズを行います。

○ 地球環境への配慮と社会貢献活動を大切にします。

1 お客様とのかかわり

伊藤ハムグループでは、企業の社会的責任を果たすためには、お客様とのコミュニケーションは必要不可欠であると考え、お客様との交流やお客様への情報提供に積極的に取り組んでいます。

お客様の健康と豊かな食文化への貢献

お客様の健康と豊かな食文化へ貢献するために伊藤ハムグループでは次のような活動を実施しています。

もっとおいしくコミュニティ

「もっとおいしくコミュニティ」とは、伊藤ハム商品のコンセプトである「おいしさがブランド」を求めて、味に興味のある主婦の方を対象に半年契約でモニターを行っています。その主婦の方から弊社商品の味をさらにおいしくするために、さまざまな角度からご意見を伺い、お客様のニーズを商品に反映していく試みで、2004年11月よりスタートし、今後も継続して実施します。

お客様の代表であるモニターのご意見で「おいしくなった」と認められた商品のパッケージに下記マークが入ります。

多くの人達の「あふれる笑顔」をイメージし、顔の真中に"おいしさへの驚きや感嘆、アイデア"が有るということを表現しています。

もっとおいしくコミュニティ実施風景

安全・安心システム「トレーサビリティ」

お客様においしい牛肉を安心してご提供できるよう、弊社グループの食肉加工センターで加工された弊社推奨銘柄牛や弊社グループの海外直営牧場・加工場で肥育・加工された弊社推奨銘柄牛の出生・飼育・加工情報を一貫して収集、データベースで管理する「トレーサビリティシステム」を導入しています。

詳しくは弊社ホームページをご覧ください。

http://www.itoham.co.jp

「食」に関する情報発信

お客様の健康と豊かな食文化へ貢献するために、弊社ホームページでは「食品に関するおはなし」「ハム・ソーセージのおはなし」「美味しい、楽しいお肉のおはなし」「食肉に関する情報」など、食卓を美味しく豊かにする「食」に関するさまざまな情報を発信しています。

詳しくは弊社ホームページをご覧ください。

伊藤ハムの工場見学

ハムやソーセージができるまでの工程をキャラクターと一緒に工場見学しながら、楽しく学べます。

詳しくは弊社ホームページをご覧ください。

http://www.itoham.co.jp

社会貢献活動 Q&A

Q 「トレーサビリティ」ってなに？

A 原材料の出所や食品の製造元、販売先等の記録を記帳・保管し、食品とその情報を追跡できるようにすることです。弊社では、弊社推奨銘柄牛について、上記の「トレーサビリティシステム」を導入しています。

2 自然保護活動

伊藤ハムグループは、地域社会の一員として地域社会とのより良い関係を継続していけるように、より良い商品やサービスの提供はもとより、事業分野以外でもさまざまな社会貢献活動やボランティア活動に取り組んでいます。

森林保護活動 ――こうべ森の学校

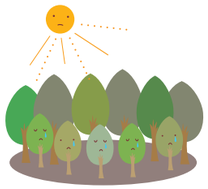
2002年に緑化100周年を迎えた六甲山地で、これからの100年の森林保全と育成を目指して神戸市が進める「六甲山のこれからの百年の森づくり」を市民の手で行う活動が、この「こうべ森の学校」です。

この活動は、市民・行政・企業が協働で森林保護活動を推進するプログラムで、弊社は活動資金を提供し、従業員ボランティアを派遣しています。

この看板も間伐材でつくられています

◇活 動 日：奇数月は第2土曜日、偶数月は第3日曜日
◇場　　所：六甲山地再度山（神戸市）周辺の森林
◇活動内容：森の手入れ（間伐、下草刈りなど）、間伐材を利用したログハウスづくり、木工細工、苗木づくり など
◇参加人数：2005年度は12回の活動が行われ、延べ842名の方が参加されました。

元気がなくなった森も → 間伐をすれば → 元気な森がよみがえります


人の手が入らない森は木が茂りすぎて、太陽の光や風の通りがさまたげられます。

間伐は、木々の間に光や風を呼び込むために行うもので、不要な木を取り除きます。

間伐した森はすっかり元気を取り戻します。

間伐材はいろいろ有効利用します

ログハウス

木工細工

ボランティアで参加した従業員とその家族

木が少ない場所には植林を

森の専門家の指導を受けながら苗を育てています。

社外の方のご意見

こうべ森の学校が発足してはや3年になりました。

伊藤ハムの皆さんとともに、再度公園の仙人谷演習林から始まり、弘法の森、牛の背演習林などでヒサカキなどの除伐やスギ、ヒノキの人工林の間伐を行い、各演習林はずいぶんと明るくなりました。作業を進めていくうちに、「これでツツジやサクラも元気になるなぁ」と思い、「ここには山桜を植えたらええなぁ」と皆で話しをしながらの3年間でした。六甲山の自然や環境をまもるために、若年層から熟年層まで幅広い市民の参加を呼びかけ、森を育てる人づくりに取り組んでいきます。伊藤ハムの皆さんとこうべ森の学校がともに協力しながら、四季折々に楽しめる森づくりを目指します。

伊藤ハムの皆さん、今後ともよろしくご支援ください。

こうべ森の学校
中山　正弘 氏

社会貢献活動 Q&A

Q 「こうべ森の学校」に参加したいのですが、いつ、どこでやっているの？

A 「こうべ森の学校」の活動は、奇数月は第2土曜日、偶数月は第3日曜日に六甲山地の再度（ふたたび）公園内（神戸市）の演習林で行っています。
活動日に直接会場にお越しいただき、簡単な手続きをするだけで参加できます。

クリーンアップ活動

水は弊社の生産活動に欠かすことができない貴重な資源です。

水辺の環境を保全し、豊かな自然環境を残していくために、主要な工場がある地域を中心に、海岸、河川、湖沼のクリーンアップ活動を行っています。

北海道・石狩市
望来浜クリーンアップキャンペーン

実　施：2005年9月
参加者：16名

兵庫県
ビーチクリーンアップin SUMA（春）（秋）

実　施：2005年4月、9月
参加者：76名（春）
40名（秋）

兵庫県
クリーンアップin甲子園浜

実　施：2005年9月
参加者：100名

北海道・札幌市
吉田山2号公園清掃

実　施：
2005年10月
参加者：
21名

佐賀県
九州工場周辺清掃

実　施：
2005年
6月、10月

愛知県
梅田川ふれあいクリーン作戦

実　施：2005年9月
参加者：13名

千葉県
ふなばし三番瀬クリーンアップ2005

実　施：2005年10月
参加者：66名

宮城県
伊豆沼・内沼クリーンアップキャンペーン

実　施：2005年3月、9月
参加者：44名、48名

事業所周辺の美化活動

水辺のクリーンアップばかりでなく、事業所周辺と従業員の通勤経路を中心とした清掃活動を定期的に実施しています。

この活動を通じて、従業員のマナー、モラルの向上にもつなげていきます。

本社

実　施：毎月第3金曜日

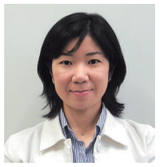
目黒事務所

実　施：毎月第3金曜日

社外の方のご意見

近年、企業の地域における社会貢献や環境コミュニケーションの取り組みが企業の社会的責任のあり方として関心を集めています。伊藤ハムさんとは、西宮市で社内外における環境学習の活動をご一緒させていただいており、甲子園浜の清掃活動や、当協会が実施する「企業・学校・NPOの協働による子どもたちへの環境学習支援」などの取り組みは、地域に根ざした活動として定着しつつあるという感じがいたします。

また、2005年度より当協会と協働で実施した『“食とeco”わくわく探検隊』においては、体験活動を通して「食」について楽しく考えることができ、参加者からはまた参加したいという声が多く聞かれました。このように地域社会の方々や次代を担う子どもたちとの対話やふれ合いを通して、「食と環境」また「食と健康」について企業の立場からメッセージを伝えていただくと共に、地域のさまざまな主体とのパートナーシップによる継続的な活動によって、社会貢献の取り組みを拡げ、深めてくださることを期待しております。


こども環境活動支援協会理事
有吉　直美 氏

社会貢献活動

伊藤ハムグループは、自然保護以外の分野でもさまざまな社会貢献活動を行っています。

地域社会の一員として、地域の子どもたちとのふれあいを大切にするとともに、世界の子どもたちのために募金活動なども行っています。ボランティアセミナーの開催など、従業員のボランティア・マインドを向上させる取り組みも行っています。

自然の中で「環境体験学習」 ―― “食とeco”わくわく探検隊

地域の子どもたちを対象に、野外での体験活動を通して食と自然の大切さを伝える「“食とeco”わくわく探検隊」。

これは、NPO法人「こども環境活動支援協会」（西宮市）と連携し、参加者を一般から公募して、毎年春と秋に行っている社会貢献活動です。

参加者は、親子で一緒に甲山（かぶとやま）（西宮市）周辺の豊かな自然の中を探検し、身近な川や山に住む生き物と触れ合ったり、森林の恵みを利用した炊事を行います。こうした体験により、命の大切さ、地球環境保護の大切さを楽しく学んでいただくことを目的としています。

川の生き物を観察

甲山の頂上で昆虫の観察

伊藤ハム“食とeco”わくわく探検隊

「甲山」の頂上を目指して

野外炊事

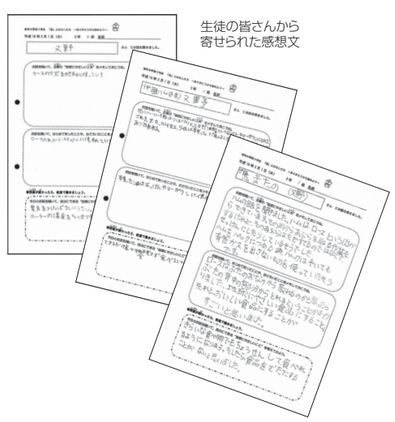
学校へ出向いて行う環境学習「出前授業」

NPO法人「こども環境活動支援協会」（西宮市）が主催する「環境学習支援プロジェクト」に2004年より参加しています。2005年度は、下記の3校で環境学習「出前授業」を行いました。

武庫川女子大学附属高等学校	2年生	90名
西宮市立北六甲台小学校	5年生	25名
西宮市立安井小学校	5年生	30名

武庫川女子大学附属高等学校

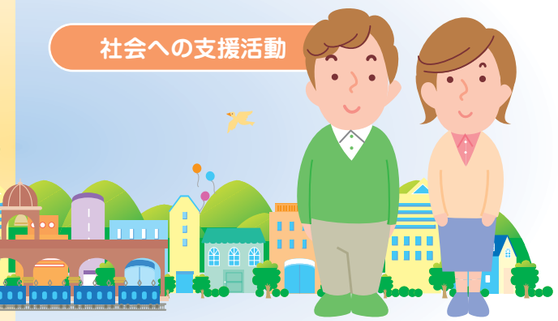
北六甲台小学校



生徒の皆さんから寄せられた感想文

子どもたちへの支援活動

社会への支援活動



ユニセフ支援活動

2005年11月1日～2006年1月31日の3カ月間、伊藤ハムグループの約270カ所の事業所でユニセフ募金活動に取り組みました。ここで集まった募金は、世界中の子どもたちの幸福を願い、マッチングギフト（会社拠出分）と併せて1,170,574円を財団法人ユニセフ協会に寄付しました。12月には東京と兵庫で街頭募金「ハンド・イン・ハンド」に参加しました。また、2005年度はユニセフグッズのカタログ斡旋販売も従業員向けに行いました。

街頭募金活動

ユニセフから感謝状

社内で行った募金活動

被災地救援支援活動

国内外で発生する自然災害で、被害に遭った人々の生活援助を目的とし、国・地方公共団体・その他の団体に対して、義援金や弊社の製品を救援物資として贈る活動を行っています。

【2005年度の支援活動】

- 米国ハリケーン「カトリーナ」の被災地
- 総雨量が1,300ミリを超えた台風14号の被災地
  ・鹿児島県垂水市　・宮崎県3市7町3村　・山口県1市1町
- パキスタン、インドに未曾有の被害をもたらした「パキスタン北部地震」の被災地

社会貢献推進期間

毎年、9月1日～10月31日の2カ月間を「社会貢献推進期間」と定め、従業員の意識向上と積極的な社会参加を目的とした活動を各地区で実施しています。

同期間のキャッチフレーズを従業員から募集し、最優秀作品を統一のキャッチフレーズとして展開し、社会貢献活動のさらなる拡大と定着に取り組んでいます。

2005年度には、従業員に社会貢献活動の現状を伝え、啓発に役立てるために全国の主要事業所で「巡回社会貢献パネル展」を行いました。

●2005年度キャッチフレーズ
「自分にもできること　きっとある」

主要事業所を巡回した社会貢献パネル展

ボランティアセミナー

2005年9月から10月にかけて、従業員のボランティア意識の向上と社会活動への参加を促すことを目的に、社外から講師を招いて「ボランティア入門講座」を開催しました。初心者でも分かりやすいテーマと内容で業務終了後に行い、合計で211名の従業員が参加しました。

参加した従業員からは「このセミナーが、ボランティアを行うきっかけとなるかも知れない」との声があがっていました。

【2005年度の実施事業所】

- 本社事務所・西宮工場
- 豊橋工場
- 東京工場
- 伊藤ハムデイリー（株）東北工場
- サンキョーミート（株）

ボランティアセミナー　講師：社会福祉法人大阪ボランティア協会事務局長　早瀬 昇氏

ボランティア休暇制度

環境保全、災害時の被災地救援や社会福祉などのボランティア活動に参加する場合、積み立て保存年休の範囲内で1年間に10日間の休暇を取得できるボランティア休暇制度を導入しています。

表彰制度

毎年、「社会貢献活動実態調査」を行い、従業員の社会貢献活動とのかかわりを把握しています。その中で、顕著な社会貢献活動を継続して実施している従業員を表彰する制度を設けています。

社会貢献活動 Q&A

Q 環境学習「出前授業」を受けたいのですが、どうやって申し込むの？

A 環境学習「出前授業」は、NPO法人「こども環境活動支援協会」（西宮市）の企業プロジェクトに参加して実施しています。
現在のところ弊社に直接お申し込みをしていただけません。申し訳ございません。

3 労働安全衛生と健康づくり

従業員の安全と健康を守り、安心して働ける職場環境を形成するために、安全衛生に関する方針を定め、さまざまな活動に取り組んでいます。不幸な労働災害の撲滅、心身の健康の確保を第一に考え、今後も取り組みを進めていきます。

安全衛生管理基本方針（2006年度）

1. 安全衛生関係諸法令を遵守し、安全衛生管理レベルの向上を図る。
2. 管理監督者は、安全衛生の基本を職場に徹底する。
3. 従業員は、安全衛生基準・ルールを遵守する。
4. 実作業に則した安全衛生教育・訓練を繰り返し行う。
5. 「切れ」「はさまれ・巻き込まれ」「転倒」災害を撲滅する。
6. 構内協力会社と安全衛生管理上の連携、情報交換を十分に行う。
7. 心身の健康づくりを推進する。

労働安全衛生

中央安全衛生委員会

伊藤ハムグループの全部門で安全衛生活動を進めていくために、毎年期初に中央安全衛生委員会を開催しています。

委員会では、年度の「安全衛生管理基本方針」を審議・承認し、これに従って全社全部門で安全衛生活動を進めていくことになります。

2006年度 中央安全衛生委員会

安全衛生監査

不幸な労働災害や職業性疾病の発生を防止し、危険のない職場の実現を目指して、CSR推進本部環境安全推進室と工場の安全管理者等で構成する監査チームが、年度の安全衛生監査計画に沿って主要事業所の監査を行い、継続的改善に努めています。

監査は書類監査とプラント監査からなり、2005年度は26事業所の監査を行いました。

労働安全衛生法などの遵守状況の確認と危険箇所の改善を行いました。

プラント監査

安全衛生教育

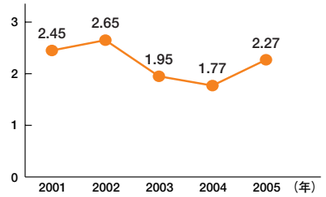
生産工場では、主任昇格時に監督者安全衛生教育を実施し、従業員の安全の確保と安全衛生意識の向上に取り組んでいます。

また、新入社員の集合研修では安全に仕事をするための基本を身につけるために、「安全衛生の基本」の講義をカリキュラムに取り入れています。

監督者安全衛生教育

千人率の推移（伊藤ハムグループ）＜休業4日以上災害＞

※千人率とは…労働者1,000人当たり、1年間に発生する死傷者を示すもの。



＜参考＞2004年食料品製造業:4.70

健康づくり

メンタルヘルスへの対応

従業員のメンタルヘルスに対応するために外部専門機関と提携し、専門的支援を行っています。

主な内容

①「伊藤ハムグループ 心のほっとライン」という無料の電話相談を開設し、問題解決に向けて専門的支援を行う。

②ストレスチェックアンケートを実施し、従業員のストレスについて自身で客観的に理解したり、仕事のストレス判定による職場診断を行う。

③管理職などへの研修を実施。

本社事務所のポスター

健康情報の提供

心身が健康でなければ、お客様に信頼していただける仕事はできません。伊藤ハム健康保険組合では、健康診断、人間ドック、ウォーキング大会やメンタルヘルスなど、健康づくりに関する情報を、社内イントラネットを利用して従業員に向けて発信しています。

環境報告

環境宣言

弊社は創業以来「事業を通じて社会に奉仕する」ことを社是として、食品の安全と品質の向上に努め、食文化と社会の発展に寄与してまいりました。

一方、1980年代後半から環境問題が地球規模となり、経営の新しいパラダイムが求められてまいりました。私たちはこの変化に対応し、継続的な環境保全と自然との調和・共生に配慮した事業活動を通じて、経営品質の高揚を図るべく新たに環境にかかわる基本理念を掲げ、全従業員が一丸となった活動を展開することを宣言します。

基本理念

私たちは地球規模の環境保全が、人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、事業活動を通じて環境に配慮し、その保全と社会との共生を図る努力を持続的に実践してまいります。

行動指針

1. 開発から使用・廃棄に至るすべての過程で環境影響に十分配慮した商品、及びサービスの開発推進を行います。
2. 環境に及ぼす影響を考慮し、環境目的・目標を定め、定期見直しにより環境保全の継続的改善を図ります。
3. 環境関連法・規制・条例・協定を遵守し、自主管理基準を定め環境保全活動に努めます。
4. 省エネルギー、省資源、及び廃棄物・温暖化物質・オゾン層破壊物質の排出削減を図るとともに、廃棄物の資源リサイクルを推進し、循環型社会形成の対応と地球環境負荷低減に努めます。
5. 外部・内部監査を定期に実施し、自主管理の徹底を図ります。
6. 社内外の環境教育及び社内広報活動を通じて、従業員に環境基本方針の理解と環境保全意識の向上を図ります。
7. 海外事業活動において、当事国における環境保全に十分配慮します。
8. 環境基本方針及び環境保全と活動結果について、社会・環境報告書により情報開示します。

1 伊藤ハムの事業活動と環境とのかかわり

INPUT

エネルギーや資源の使用をできる限り少なくする努力をしています。

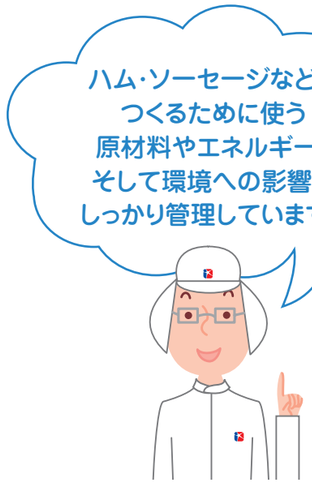
総エネルギー投入量

電力‥159,497千kWh
燃料‥‥31,325kl

用水‥‥‥ 4,662千m^3
（上水道‥‥ 288千m^3
工業用水‥1,732千m^3
地下水‥ 2,642千m^3）

物質投入量

原材料‥‥‥ 105,127t
包装材料‥‥‥5,812t
副原料



調達

生産活動

生産量‥‥132,643t

研究開発 → 生産 → 出荷

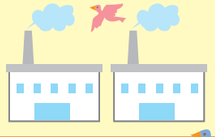
物流活動

物流拠点 → 営業拠点 → お取引先（店舗）

お客様

大気への排出

CO_2‥118,570t-CO_2
SOx‥‥‥‥12t-SO_2
NOx‥‥‥ 196t-NO_2



水域への排出

排出量‥‥ 4,195千m^3
BOD‥‥‥‥ 47t
窒素‥‥‥‥‥ 28t
りん‥‥‥‥‥‥12t

廃棄物の排出

総排出量‥‥ 24,845t
リサイクル量‥ 23,184t
リサイクル率‥‥ 93.3%

大気への排出

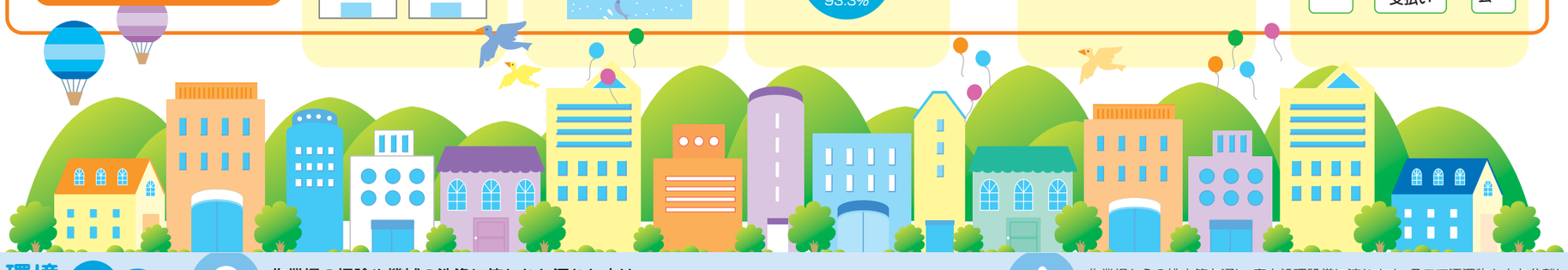
CO_2‥‥‥ 8,410t-CO_2

排出 → リサイクル

伊藤ハムグループ各社 ⇄ 再商品化委託契約 ⇄ 日本容器包装リサイクル協会
伊藤ハムグループ各社 → 委託料金支払い → 日本容器包装リサイクル協会

OUTPUT

事業活動による排出をできる限り少なくする努力をしています。



伊藤ハムの環境保全活動

豊かな地球環境の保全に貢献するため、さまざまな活動に取り組んでいます。

省エネルギー・地球温暖化防止の取り組みを進めています。
P23

資源の枯渇を防ぐために廃棄物の削減とリサイクルを進めています。
P24

環境汚染を防ぐために大気・水域への排出を最小限に抑えています。
P25

環境活動 Q&A

Q 作業場の掃除や機械の洗浄に使われた汚れた水は、どうやって工場の外に流しているの？

A 作業場からの排水管を通り、廃水処理設備に流れます。そこで汚濁物と水を分離し、法律や条例で定められた排水基準まで浄化した後、下水道や河川などへ放流しています。

2 第2次中期環境目標の取り組み結果と自己評価

2004年4月に設定した「第2次中期環境目標」を達成するために環境負荷低減活動を進めてきました。2005年度は設備の改善や効率的な運用に努めましたが、生産原単位で総エネルギー使用量、用水使用量、二酸化炭素（CO_2）排出量が次のとおり基準年度より増加しました。2006年度は、その現状と要因を十分に分析し、目標達成に向けて全社一丸となって積極的に環境負荷低減活動を推進します。

■ 第2次中期環境目標

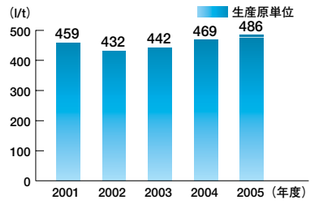
項目		指標	基準年度（2003年度）	2005年度目標値 数値	2005年度目標値 増減	2005年度結果 数値	2005年度結果 増減	評価	最終年度（2006年度）目標値
1）省エネルギー、省資源の推進		・総エネルギー使用量（l/t）	442	429	▲3.0%	486	10.0%		▲4.0%
		・用水使用量（m^3/t）	31.9	31.0	▲3.0%	35.1	10.0%		▲4.0%
2）廃棄物の削減とリサイクルの推進		・廃棄物排出量（kg/t）	189	183	▲3.0%	188	▲0.5%		▲4.0%
		・リサイクル率（%）	89.4	96.0	6.6ポイント	93.3	3.9ポイント		100.0%
3）温室効果ガスの排出削減		・二酸化炭素（CO_2）排出量（kg-CO_2/t）	809	785	▲3.0%	894	10.4%		▲4.0%
4）グリーン購入の推進	金額ベース	・事務用品のグリーン購入率（%）	59.4	86.4	27.0ポイント	92.5	33.1ポイント		100.0%
	数量ベース	・事務機器のグリーン購入率（%）	100.0	100.0	—	81.0	▲19.0ポイント		100.0%
5）環境管理体制の充実		・グループ会社のISO14001認証取得推進 ・環境監査の継続実施							

※1）～3）は生産原単位　※総エネルギー:原油換算（購入電力+燃料+購入蒸気）　※5）は単年度目標を設定していません。継続して推進、実施します。

① 省エネルギー、省資源の推進

総エネルギー生産原単位は10.0%増加しました。

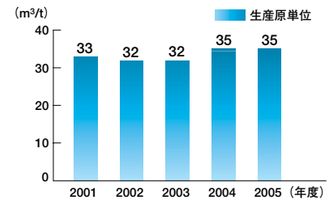
●総エネルギー使用量の推移



自己評価 詳しくは23ページ

用水生産原単位は10.0%増加しました。

●用水使用量の推移

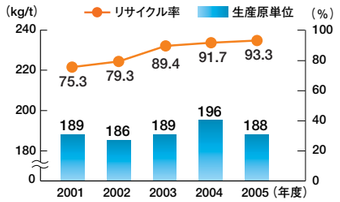


自己評価 詳しくは23ページ

② 廃棄物の削減とリサイクルの推進

廃棄物生産原単位は0.5%削減。リサイクル率を3.9ポイント高めました。

●廃棄物排出量とリサイクル率の推移

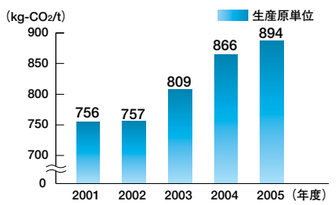


自己評価 廃棄物排出量 リサイクル率 詳しくは24ページ

③ 温室効果ガスの排出削減

二酸化炭素（CO_2）生産原単位は10.4%増加しました。

●二酸化炭素（CO_2）の排出量の推移

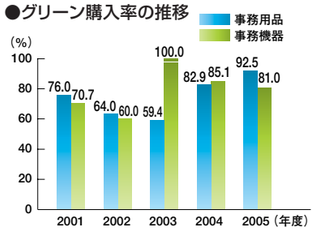


自己評価 詳しくは25ページ

④ グリーン購入の推進

事務用品のグリーン購入率を33.1ポイント高めました。（事務機器は19.0ポイント低下しました）

●グリーン購入率の推移



自己評価 事務用品 事務機器 詳しくは20ページ

⑤ 環境管理体制の充実

ISO14001の認証取得と環境監査の実施については継続して取り組んでまいります。

項目	2005年度の結果
ISO14001	1事業所（小樽工場）で認証取得（累計14事業所） 2005年度に受審し2006年4月に認証取得
環境監査	5事業所で実施

自己評価

- 2005年度の実績値が目標値の100%以上でした。
- 2005年度の実績値が目標値を下回りましたが、基準年度より改善されました。
- 2005年度の実績値が基準年度を下回りました。継続して、より一層取り組みを進めます。

※①～④の増減は基準年度（2003年度）との比較

3 環境保全活動の沿革

年月	弊社の主な取り組み内容
1965年	・廃水処理設備の導入開始
1973年	・都市ガス燃料ボイラーの導入開始
1991年	・生産各工場に「環境管理室」を設置
1993年	・生産事業本部に「環境安全担当」を設置
1994年	・大型ボイラーから小型ボイラーに更新し環境負荷を低減
1998年	・営業車輌に天然ガス（CNG）自動車の導入開始（業界初） ・「環境担当役員」を選任、「環境安全推進室」を設置 ・全社的な環境活動推進組織「環境委員会」を設置 ・「環境委員会・生産部会」「工場環境会議」を設置
1999年	・「環境基本方針」を制定 ・東京工場が廃棄物計量システムを導入
2000年	・西宮工場、豊橋工場、東京工場がISO14001を認証取得 ・オーストラリアのロックデールビーフ社がISO14001を認証取得 ・環境監査実施基準を策定し、全社的に環境監査を開始 ・西宮工場、豊橋工場が廃棄物計量システムを導入 ・環境報告書を初めて発行 ・ホームページの「伊藤ハム環境保全活動の取り組み」を開設
2001年	・ニュージーランドのファイブスタービーフ社がISO14001を認証取得 ・六甲工場がISO14001を認証取得 ・中期経営計画において環境活動3カ年計画を策定 ・グリーン購入基本方針制定 ・九州工場が廃棄物計量システムを導入 ・生産工場を対象に環境会計を導入 ・西宮工場で都市ガスによるコージェネシステムが稼働
2002年	・九州工場、サンキョーミート(株)有明ミート工場・藤栄ファーム事業部・霧島ミート工場がISO14001を認証取得 ・環境基本方針の「環境行動指針」を一部改定 ・環境推進組織「生産部会」の下に「省エネ対策専門会議」を設置 ・九州工場、豊橋工場、伊藤ハムデイリー（株）東北工場でコージェネシステムが稼働 ・コンプライアンス・ハンドブックを従業員に配布 ・日本食糧新聞社の「環境資源協力賞」を受賞 ・社会貢献活動理念と活動方針を策定
2003年	・北神加工センター、船橋工場がISO14001認証取得 ・「社会貢献推進期間」を設定し、全国の事業所で社会貢献活動の取り組みを開始 ・「クリーンアップin甲子園浜」（初めての自主企画）を実施 ・こうべ市民演習林の名称が「こうべ森の学校」と決定し、本格的な森林保護活動がスタート
2004年	・デイリー物流（株）、伊藤ハムデイリー（株）東北工場がISO14001認証取得 ・北神加工センターが事業所閉鎖にともないISO14001認証を返納 ・全国農林水産関連企業環境対策協議会より感謝状の贈呈 ・平木小学校（西宮市）において環境学習「出前授業」を初めて実施
2005年	・自然保護をテーマにした「"食とeco"わくわく探検隊」を実施（春・秋） ・武庫川女子大学附属高等学校（西宮市）において環境学習「出前授業」を実施 ・北六甲台小学校（西宮市）において環境学習「出前授業」を実施 ・安井小学校（西宮市）において環境学習「出前授業」を実施
2006年	・伊藤ハムデイリー（株）小樽工場がISO14001を認証取得（4月）

環境報告

環境活動 Q&A

Q 環境報告書はいつから発行しているの？

A 2000年に初めて発行しました。初年度は社内担当者の手づくりの報告書でした。2005年よりタイトルを「社会・環境報告書」に改題し、社会性報告の要素を充実させました。

4 環境マネジメント

環境保全活動をより効果的に行い、持続可能な社会の構築に貢献し、企業の社会的責任を果たしていくために環境マネジメントシステムを構築し運用しています。

環境マネジメントの推進組織

環境マネジメントを推進し、さまざまな環境関連問題に対して迅速かつ円滑に対応できるような環境管理体制を構築しています。環境基本方針や環境課題・目標設定など全社的な事項は「環境委員会」で審議・決定しています。

また、発生する諸問題へは、必要に応じて専門部会を設置し、対応しています。環境委員会での決定事項については、会社組織や各部会などを通じて全事業所に周知徹底するようにしています。

環境監査の実施

環境汚染や環境事故を未然に防止し、環境管理レベルをより一層向上させるために、事業所内で実施する内部環境監査のほかに、CSR推進本部環境安全推進室と工場環境管理責任者などで構成する監査チームが、年度の環境監査計画に沿って主要事業所の監査を行っています。

2005年度に監査した事業所

伊藤ハム：九州工場、船橋工場

関連会社：伊藤ハムデイリー（株）東北工場、小樽工場
伊藤ハム食品（株）小矢部工場

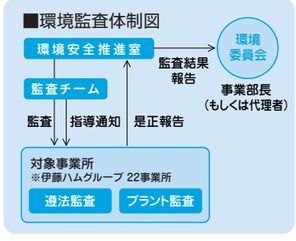
監査項目

環境関連法遵守状況、公害防止管理、廃棄物管理、化学物質管理、環境パフォーマンス管理　など

監査結果

2005年度の監査の結果、遵法状況と環境関連施設などの管理状況に、大きな問題はありませんでした。

■環境監査体制図



ISO14001認証取得

環境マネジメントシステムを効果的に運用し、継続的な改善を実施するために、国際標準規格であるISO14001を認証取得しています。伊藤ハムグループでは2000年2月に西宮工場が認証取得して以降、生産工場を中心に認証取得を進めてきました。

2005年度は伊藤ハムデイリー（株）小樽工場が審査を受け、2006年4月に認証取得しました。

ISO14001認証取得事業所では、それぞれの事業所で環境方針と目的・目標を定め、継続的な改善に取り組んでいます。

現在、伊藤ハム食品（株）小矢部工場がマネジメントシステムを構築中です。引き続きグループ全体の環境マネジメントの向上に取り組んでいきます。

認証取得事業所一覧 ▶ P32

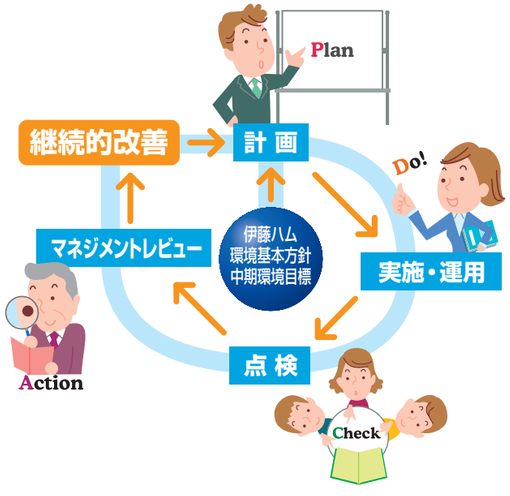
ISO14001審査風景（小樽工場）

認証取得に向けキックオフ宣言　（小矢部工場）

PDCAサイクル

組織が自ら環境方針と目的を定め、その実現のための計画（Plan）を立て、それを実施・運用（Do）し、その結果を点検（Check）し、さらに次のステップを目指した見直し（Action）を行うというPDCAサイクルを確立し、循環させます。

それにより、らせん状に環境マネジメントシステムの向上、継続的改善を実現し、環境に与える負荷を減少させることを目的としています。



グリーン購入の推進

伊藤ハムグループでは「グリーン購入基本方針」と「グリーン購入ガイドライン」を制定し、省エネ・省資源など、環境に配慮した物品の優先的な購入に取り組んでいます。

今後も引き続き、環境に配慮した物品購入に取り組んでいきます。

グリーン購入一覧 ▶ P32

【グリーン購入基本方針】（2001年制定）

地球環境問題が深刻化する中で、持続可能な社会をいかに実現するかが世界共通の課題になっています。その実現のための取り組みの一つとして、経済活動を支える全ての製品やサービスで、環境に与える負荷ができるだけ小さい製品の優先的購入を進める必要があります。資源採取から廃棄までの製品のライフサイクルを考慮して、「環境汚染物質の削減」、「省エネルギー・省資源」、「持続可能な資源の利用」、「長期使用可能」、「再使用可能」、「再生素材等の利用」、「処理・処分の容易性」等の観点から製品、資材等の購入を行い、「廃棄物の減量化」と「環境負荷低減」をめざします。

【グリーン購入基本原則】（2001年制定）

1. 二酸化炭素などの地球温暖化ガス、フロンなどのオゾン層破壊物質、窒素酸化物などの大気汚染物質など、環境や人の健康への被害を生ずる恐れのある物質を使用しないか、使用量を削減していることを配慮したものとする。
2. 資源の枯渇問題を考え、省資源や省エネルギーに配慮したものとする。
3. 持続可能な資源利用に配慮したものとする。
4. 修理や部品交換の容易さ、保守・修理サービス期間の長さ、拡張機能性を考慮して、長期使用可能に配慮したものとする。
5. 再使用が可能で、その使用回数が多くなることを配慮したものとする。
6. リサイクルしやすい素材の使用や、素材ごとに分離・分解・分別がしやすいことに配慮したものとする。
7. 製品は、再生された材料及び再生品使用比率の高い材料を使用したものに配慮したものとする。
8. 廃棄される時に処理・処分が容易であることに配慮したものとする。
9. ISO14001認証取得及び環境に配慮する情報を公開し、環境保全に積極的な事業者が製造・販売している製品を配慮する。
10. 製品や製造・販売事業者に関する環境情報を積極的に入手して活用する。

GPN Green Purchasing Network ®

伊藤ハム株式会社は、グリーン購入ネットワークの会員です。

環境活動 Q&A

Q 全社を統括する環境の専門組織はあるの？

A 1998年に全社の環境管理を統括する「環境安全推進室」を設置しました。主要工場では、「環境管理室」などの日常の環境管理を専門に行う部署があります。

関係法規及び法の遵守

グループの事業活動にかかわる環境関連法や各地域での環境関連の保全協定などの遵守はもちろん、事業所ごとに自主基準値を定めて、環境負荷の低減と環境事故の未然防止に努めています。ISO14001を認証取得している事業所では、定期的なチェックと対策をシステム化し、運用していますが、さらに本社の環境担当者などによる「環境監査」を実施しています。

伊藤ハムグループの事業所に適用される環境関連法の主なものには次のようなものがあります。

- 大気汚染防止法
- 水質汚濁防止法
- 特定工場における公害防止組織の整備に関する法律
- 廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）
- 食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律（食品リサイクル法）
- 資源の有効な利用の促進に関する法律（リサイクル法）
- 容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律（容器包装リサイクル法）
- 特定製品に係るフロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律（フロン回収破壊法）
- 特定の化学物質の環境への排出量等の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（PRTR法）
- エネルギーの使用の合理化に関する法律（省エネルギー法）
- 地球温暖化対策の推進に関する法律(地球温暖化対策推進法)
- 労働安全衛生法
- 自治体との環境保全協定　　など

環境管理へのお問い合わせ

2005年度は、次のようなお問い合わせをいただきました。お問い合わせに対してはその都度、迅速に対応しています。対応策実施後、先様に報告し、効果を確認のうえ、ご了解をいただいています。

	内容	対応策
悪臭について	工場からの臭気が強いため、調査をしてほしい。	調査の結果、下水ピットに設置された換気ファンからの臭気と判明しました。下水ピットの換気ファンを停止、換気口を閉鎖し、臭気の漏出をなくしました。
騒音について	夜間、営業所敷地内に設置された冷凍機の室外機の音がうるさい。	業者による騒音測定、防音壁の状態の確認、デフロストタイマーの設定時間のチェックを実施しました。先様に測定結果を報告するとともに防音壁の補強を進めています。

緊急時の対応策

サイトの管理範囲外や敷地外への環境汚染や事故などの突発的事態を想定し、影響の拡散を防ぎ汚染を最小限に抑えるとともに、早期に修復するために、環境マネジメントシステムの緊急時の処置手順に沿って、定期的に訓練を実施しています。万一事故が発生したときには、社内間での連絡と地域住民、行政機関への連絡を円滑に行うため、「環境関連の緊急時連絡システム」を運用しています。

■ 2005年度の主な緊急時の訓練実施状況

事業所名	訓練の内容	参加者数
伊藤ハム株式会社		
九州工場	フロンR-22の漏洩対応訓練など	9人
六甲工場	汚泥・汚水の漏洩対応訓練など	8人
西宮工場	フロンR-22の漏洩対応訓練など	24人
豊橋工場	汚水遮閉装置の操作訓練など	22人
東京工場	化学薬品の漏洩対応訓練など	9人
船橋工場	機械廃油の漏洩対応訓練など	25人
伊藤ハムデイリー株式会社		
東北工場	重油の漏洩対応訓練など	17人
小樽工場	フロンR-22の漏洩対応訓練など	6人
サンキョーミート株式会社		
有明ミート工場	火災発生対応訓練など	57人
霧島ミート工場	重油の漏洩対応訓練	9人
ファーム事業ユニット	軽油漏洩対応訓練	3人
伊藤ハム物流株式会社		
仙台共配センター	火災発生対応訓練	146人

フロンR-22の漏洩対応訓練（九州工場）

汚水遮閉装置の操作訓練（豊橋工場）

化学薬品の漏洩対応訓練（東京工場）

火災発生対応訓練（有明ミート工場）

環境会計

環境会計は、グループの主要工場を対象に2001年度に導入し、環境経営のツールとして活用しています。環境保全コストの前期との比較検証を容易にするため、投資額、費用額の前期実績及び増減を記載しています。

2005年度環境会計の分析

六甲工場の廃水処理設備の改修、九州工場、豊橋工場の冷凍設備を高効率機器に更新しましたが、投資額は前年度より減少しました。費用額は神戸工場、中部プラントの稼働による環境関連設備の維持費の増加、容器包装リサイクル法の再商品化委託料の増加などのため、前年度より増加しました。

今後は集計範囲の拡大と集計精度の向上を図っていきます。

■ 環境保全コスト

（単位:千円）

分類	主な取り組み内容	投資額 当期	投資額 前期	投資額 増減	費用額 当期	費用額 前期	費用額 増減
事業エリア内コスト		127,768	225,392	▲97,624	1,068,784	1,049,728	19,056
公害防止コスト	廃水処理設備の改善・環境関連設備の維持管理	17,660	166,387	▲148,727	667,413	556,315	111,098
地球環境保全コスト	省エネルギー設備の設置、対策費用	107,204	57,795	49,409	62,113	129,608	▲67,495
資源循環コスト	廃棄物のリサイクル及び処理処分費用	2,904	1,210	1,694	339,258	363,805	▲24,547
上・下流コスト	容器包装リサイクル法の再商品化委託料	0	0	0	198,563	131,094	67,469
管理活動コスト	ISOマネジメントシステムの構築及び維持、社員教育他	884	1,825	▲941	70,371	59,728	10,643
研究開発コスト		0	0	0	0	0	0
社会活動コスト	工場緑化・その他の環境活動費用	40	14,500	▲14,460	15,707	16,456	▲749
環境損傷対応コスト	重油燃料使用にともなう汚染賦課金	0	0	0	3,036	3,049	▲13
合　計		128,692	241,717	▲113,025	1,356,461	1,260,055	96,406

■ 環境保全効果

効果の内容		指標の分類	指標の値 総量	指標の値 原単位調整量
事業エリア内コストに対応する効果	事業活動に投入する資源に関する効果	エネルギーの投入（kl）	▲3,234	▲2,315
		用水の投入（千m^3）	▲48	21
	事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する効果	二酸化炭素（CO_2）の排出（t）	▲5,446	▲3,749
		廃棄物の排出（t）	555	938

*指標の値　総量：前期に対する削減量【前期投入量（排出量）−当期投入量（排出量）】
原単位調整量：生産原単位を加味した削減量【前期投入量（排出量）×（当期生産量／前期生産量）−当期投入量（排出量）】
*当期生産量＝132,643t、前期生産量＝130,653t
*エネルギーの投入量は、購入電力、燃料、購入蒸気を原油換算した値（kl）

■ 環境保全対策にともなう経済効果

（単位:千円）

効果の内容		総金額	原単位調整金額
収　益	廃棄物の有価売却による収益	▲117	137
費用削減	省エネルギーによるエネルギー費の削減（電力+燃料+購入蒸気）	▲161,595	▲122,057
	用水にかかる費用の削減	64,129	69,206
	廃棄物処理費の削減	7,583	137

*指標の値　収益：当期収益
費用削減：前期に対する費用削減額【前期費用−当期費用】
原単位調整金額：生産原単位を加味した費用削減額【前期費用×（当期生産量／前期生産量）−当期費用】

集計方法

1. 投資額及び減価償却費は、100%環境目的のもののほか、環境改善機能を有する生産設備については按分集計しています。
2. 環境保全効果及び経済効果については、効果の総量（総金額）と原単位調整量（金額）の両方で集計しました。
3. 公表フォーマットは「環境会計ガイドライン（2002年度版）」に沿っています。

2005年度の集計結果

集計期間：2005年4月1日〜2006年3月31日
集計範囲：伊藤ハム株式会社（九州工場、神戸工場、六甲工場、西宮工場、豊橋工場、中部プラント、東京工場、船橋工場）
伊藤ハムデイリー株式会社（東北工場、小樽工場）
伊藤ハム食品株式会社（小矢部工場）

環境活動 Q&A

Q 環境に関する法律にはどのような規制が明記してあるの？

A 環境に関する法律は非常にたくさんあります。そこには、環境に悪い影響を与えないように、最低限守るべきルールが明記されています。この基準を守らないと環境に悪い影響を与えてしまいます。法律以外に、地方自治体でとり決めた条例などがあり、より厳しい規制内容となっています。

5 環境負荷低減の取り組み

生産工場やオフィス部門において、電力・燃料・用水使用量の削減、温室効果ガスや廃棄物の排出量削減など事業活動にかかわる環境負荷を低減するための取り組みを積極的に推進しています。

省エネルギーの取り組み

京都議定書が発効され、地球温暖化を防止する活動が求められるなか、伊藤ハムグループでも全社を挙げて省エネルギーに取り組んでいます。

第2次中期環境目標（3カ年計画）の2年目となる2005年度は生産品目の構成の変化などのために電力、燃料、用水とも目標値を達成することができませんでした。

2005年度に実施した主な省エネルギー対策は次のとおりです。

第2次中期環境目標の達成を目指し、さらなる省エネルギー対策を推進していきます。

電力使用量の削減対策

- 断熱効果の高い塗料で屋根を塗装しました。
- 冷凍機を高効率タイプへ更新しました。
- 分散していた空気圧縮機を集約し、省エネタイプに更新しました。
- 省エネタイプの照明器具を導入しました。
- 冷蔵庫の冷媒ポンプにインバータを設置しました。
- 廃水処理設備ブロワーにタイマーを導入しました。

屋根断熱材塗装（六甲工場）

インバータ制御の冷媒ポンプ（東京工場）

燃料使用量の削減対策

- 製品の加熱工程で発生する蒸気のドレンを回収し、廃熱を有効利用しました。
- 蒸気ボイラーは高効率の機種を採用、適正な燃焼状態を維持し、台数制御を実施しました。さらに工場全体でのロスを削減するために最適な設置台数の検討、送気圧力の低減などを進めています。

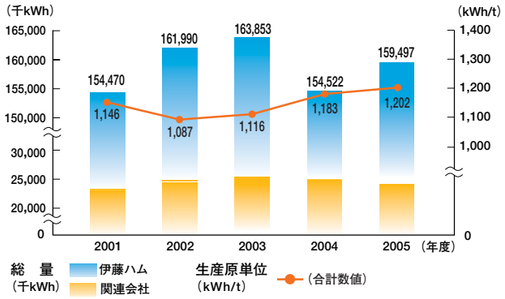
用水使用量の削減対策

- 冷蔵設備のデフロスト水を貯水槽に貯め、トイレの洗浄水として利用しました。
- 廃水処理設備で浄化した水を芝生へ散水し、有効利用しました。

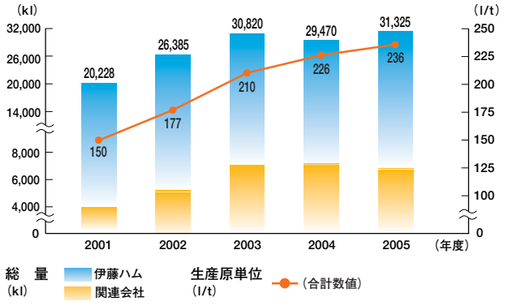
デフロスト水貯水槽（豊橋工場）

デフロスト水再利用の標示（豊橋工場）

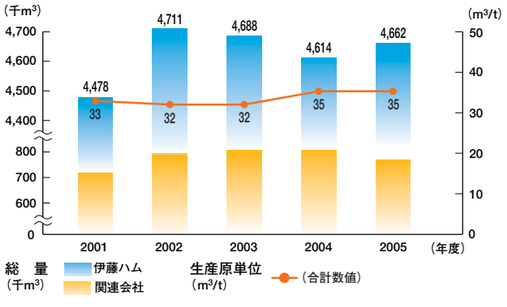
電力使用量の推移



燃料使用量の推移



用水使用量の推移



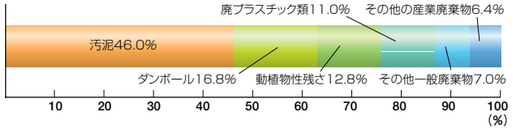
廃棄物の削減と有効利用

廃棄物の削減はエネルギー、用水の使用量削減とともに活動の主軸となっており、中期環境目標の重要な指標の一つです。発生抑制（リデュース）・再使用（リユース）・再資源化（リサイクル）の3Rの推進、分別廃棄の徹底に努めています。

2006年度の目標達成に向け、さらなる廃棄物の削減、リサイクル率の向上を推進していきます。

排出量の割合

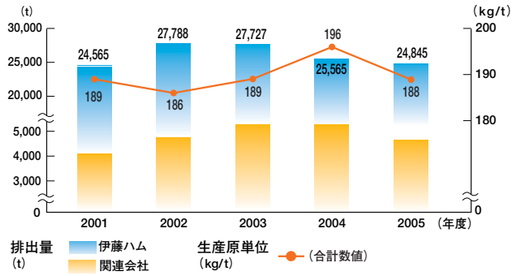
生産工場から排出される廃棄物の割合は以下のとおりです。



廃棄物の削減

2005年度は、特に汚泥が減少しました。豊橋工場で2004年度に実施した廃水処理設備の改善効果が現れたこと、東北工場で設備の適正な管理ができたことによるものです。豊橋工場では、汚泥の一層の削減を目指し汚泥消滅装置の実証実験を実施しています。

廃棄物の排出量の推移



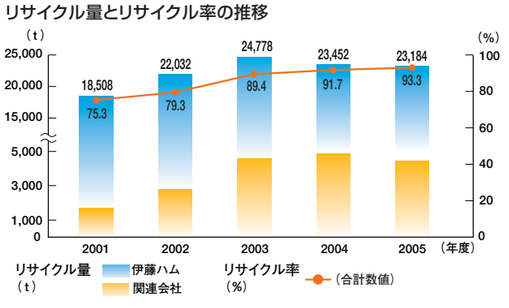
廃棄物の有効利用

廃棄物の分別を徹底し、有効利用を進めた結果、リサイクル量とリサイクル率は以下のとおりとなりました。

廃棄物の有効利用例

廃棄物の種類	有効利用の一例
汚泥	肥料
廃油	油水分離後、燃料
廃プラスチック	プラスチック原料、燃料
紙類	製紙原料
金属くず	金属原料
ガラスくず	再生ガラス、路盤材
動植物性残さ	肥料、ペットの飼料

リサイクル量とリサイクル率の推移



食品廃棄物のリサイクル

生産工場では、原料処理から包装、出荷までの工程で食品加工機械やコンベアーに受け皿やカバーを取り付けるなどの工夫を重ね、食品廃棄物の発生を抑制しています。

中期環境目標の基準年度である2003年度比の主要グループ会社の食品廃棄物リサイクル率は、以下のとおりです。

金属検知器に取り付けた受け皿（九州工場）

会社名	2003年度リサイクル率	2005年度リサイクル率	増減ポイント
伊藤ハム（株）	89.3%	99.8%	10.5ポイントアップ
伊藤ハムデイリー（株）	62.7%	98.9%	36.2ポイントアップ
伊藤ハム食品（株）	80.0%	100.0%	20.0ポイントアップ

TOPICS 廃包装フィルムのリサイクル

伊藤ハムでは、品質を維持するために複数の素材を組み合わせたフィルムを多くの製品の包装に使用しています。

単一素材ではないためマテリアルリサイクルが困難なフィルムですが、東京工場、西宮工場などでは、製品の包装時に発生するフィルムの端材やフィルム切り替え時に発生する廃包装フィルムをセメント工場の燃料やRPF※の原料として有効利用しています。

廃包装フィルム

廃包装フィルムを原料とするRPF

※RPF＝ Refuse Paper & Plastic Fuel の略称で、主に産業系廃棄物のうち、マテリアルリサイクルが困難な古紙およびプラスチックを原料とした高カロリーの固形燃料

環境報告

環境活動 Q&A

Q 工場の電力・燃料・用水の使用量はどうやって管理しているの？

A 電力・燃料・用水の使用量は家庭と同じようにメーターで管理しています。このメーターによりデータを収集し、使用量の増加や減少を確認します。収集したデータを検証し、環境負荷低減活動に役立てています。

温室効果ガスと化学物質・水質汚濁物質の排出抑制

温室効果ガスの排出を抑制するため、省エネルギー活動を進めるとともに、老朽化した設備の更新や定期的なガス漏れ検査など、オゾン層破壊の原因物質とされるフロンガス（HCFC-22）の排出量削減、漏出防止に取り組んでいます。

また、放流水の水質管理を徹底し、水質汚濁の未然防止に努めています。

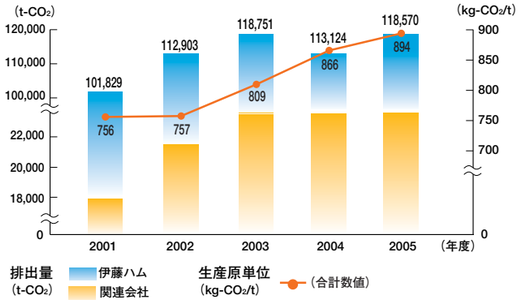
温室効果ガスの排出抑制

エネルギー由来の二酸化炭素の排出抑制は、中期環境目標の指標として継続して取り組んでいますが、生産品目の構成の変化、生産効率の低下などのため、排出量は増加傾向にあります。

2005年度の二酸化炭素排出量は118,570tとなり、基準年度（2003年度）比でわずかに減少しましたが、生産原単位では894kg/tとなり、10.5%増加しました。

二酸化炭素以外の温室効果ガスは、メタンが3.6t（二酸化炭素換算 76.8t）、一酸化二窒素が1.83t（二酸化炭素換算 567t）です。HFC、PFC、SF_6の排出はありません。

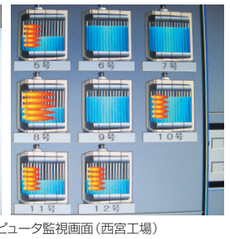
■ 二酸化炭素（CO_2）の排出量の推移



大気汚染物質の排出抑制

燃料由来の大気汚染物質の排出抑制は、燃焼機器の定期的なメンテナンスを実施するとともに、管理標準ならびに排出ガスの自主基準値を設定し、適切な燃焼管理に努めています。

蒸気ボイラーでは高効率機器の台数制御運転を実施しています。また、送気圧力を低減した運転を検討しています。法律で規制されていない燻煙装置などの燃焼設備から排出される排気ガスの浄化対策についても継続的な取り組みを進めています。



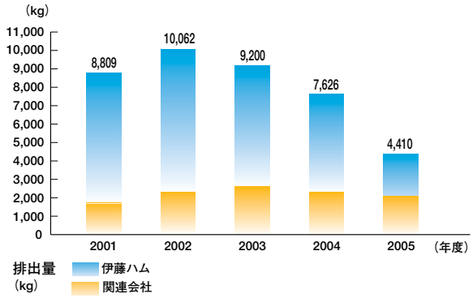
効率的に制御運転されている蒸気ボイラーとコンピュータ監視画面（西宮工場）

化学物質の排出抑制

老朽化した冷凍、冷蔵設備を更新し、使用されているフロンガス（HCFC-22）の排出抑制に努めました。冷凍設備は、新冷媒（R404A、R407C、R410A）への更新を進め、HCFC-22の使用量削減に努めています。2005年度のHCFC-22の排出量は、4,410kgでした。

その他の化学物質では消火設備のハロン1301を保有していますが、環境への排出はありません。

■ フロンガスの排出量の推移



水質汚濁物質の排出抑制

食品加工機械の洗浄や原料肉の解凍などのために使用した水は、排水管を経て廃水処理設備へ集め、そこでスクリーンにより大きな浮遊物をとります。さらに、凝集剤を投入して加圧浮上処理装置で細かい浮遊物を分離します。その後、水に溶存する汚濁物質を微生物により分解して浄化します。

浄化した水は、法令で定められた汚濁物質の種類ごとにチェックを行い、用水路や下水道へ放流しています。

汚濁物質のチェックは、工場ごとに、法令や自治体との協定値よりも厳しい自主基準値を定めて行い、環境汚染の未然防止に努めています。

なお、水を浄化する過程で発生した汚泥は、専門の処理業者へ搬送し、土壌改良剤などにリサイクルされています。

加圧浮上装置（六甲工場）

その他の環境負荷低減活動

営業・物流関係

伊藤ハムグループでは、トラックのリア扉を従来の2枚扉から4枚扉に改良した車両を導入しました。

トラックをドックシェルター（倉庫等の搬入出口）に接車する際、従来はドライバーが一旦降車して扉を全開にし、再度乗車して接車するため、ドアを開けてから接車する間に冷気が流出し、庫内の温度上昇、冷却エネルギーの浪費という問題がありました。

これを解決するため、両開きのリア扉をそれぞれ中折れする形状のものにしました。これまでは、ドックシェルターのクッション部分が扉に当たるため、プラットホーム内からは扉を開けることができませんでしたが、この工夫によって、ドライバーが降車せずドックシェルターに接車し、プラットホーム内から扉を開閉できるようになったため、冷気を逃がすことなく作業ができるようになりました。

また、アイドリングストップの励行や経済速度での運行など、二酸化炭素排出量の低減に努めています。

ドックシェルターに接車した状態

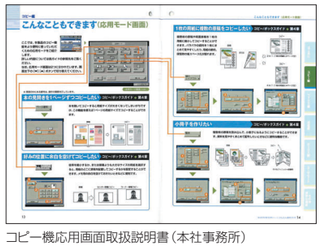
ドックシェルターのクッション部分につかえることなく開閉できます。

オフィス関係

オフィスでは、文具・事務用紙・事務機器類のグリーン購入に取り組んでいます。また、各部門に「IT推進担当者」を配置して業務におけるペーパーレス化を進めています。

特に事務用紙については、縮小レイアウト印刷機能を活用し、使用量削減に努めています。

廃棄物の排出については、紙、プラスチック、ペットボトルなど廃棄物の種類ごとに分別箱を設置し、リサイクルに支障をきたさないように分別排出を行っています。



コピー機応用画面取扱説明書（本社事務所）

本社事務所に設置された紙類分別回収BOX

工場関係

更衣室や休憩室などに人感知式照明を設置しています。特に更衣室の照明についてはロッカーの区分けごとにセンサーを取り付け、必要のない照明の点灯を防止しています。

また、資材倉庫では、搬入、搬出時に必要な箇所のみ点灯することができるよう、照明スイッチを細分化し、節電に取り組んでいます。

人感センサー付蛍光灯

資材倉庫の照明

商品の環境負荷低減

『やさしさ生活　ナチュリエシリーズ』では、「からだと地球にやさしい」商品を目指して、ソーセージはカロリーを、ハム、ベーコン、焼豚は塩分をそれぞれ20%カット※するとともに、パッケージに使われるフィルムの使用量を減らしました。（当社比）

なお、塩素系フィルムは使用していません。

※五訂 日本食品標準成分表のソーセージ·ハム·ベーコン·焼豚と比較

識別表示・材質表示

2001年4月から、スチール缶やアルミ缶、ペットボトルに加え、プラスチック製容器包装及び紙製容器包装への識別表示についても義務化されています。プラスチック製容器包装については、リサイクル推進のため材質表示を併せて実施しています。また、ダンボールについては識別表示の義務化は定められていませんが、自主運用で識別表示を進めています。

TOPICS

ハイブリッド車を導入

2005年度にハイブリッド車を4台導入しました。従来、天然ガス（CNG）自動車の導入を進めてきましたが、燃料供給スタンドに制約があり、使用地域が限られるため、今後は、ハイブリッド車をはじめとする低公害車の導入を進めていきます。

ハイブリッド車（本社）

環境報告

環境活動 Q&A

Q グリーン購入って何を買うことなの？

A グリーン購入とは、環境への影響が少ない製品を選んで買うことです。例えば、弊社では電気の消費量が少ないコピー機やパソコンなどのオフィス機器、詰め替えができるのりや再生紙を使ったファイルなどの事務用品を優先して購入しています。

6 環境コミュニケーション

伊藤ハムグループでは、地球環境問題への取り組みや社会活動に関連する情報などを、さまざまな手段で幅広くお知らせしています。また、これらについてのご質問やご意見をいただく窓口を設けています。環境保全活動・社会活動のさらなる向上のためには、ステークホルダーである皆様方との双方向のコミュニケーションが不可欠であると考えています。

情報開示

環境問題への取り組み姿勢や環境保全活動について、さまざまな機会を通じて社内外へ情報発信することは、企業が果たすべき責任であると考えています。社会・環境報告書やホームページを通じて、積極的に情報を開示しています。

社会・環境報告書の発行

環境保全への取り組みをご理解していただくために、2000年から社会・環境報告書を発行しています。主な配布先は、お客様、企業、行政機関、学校、学生、従業員などです。

社会・環境報告書は、オフィス及び工場事務所のロビーにラックを設置し、来社されたお客様が自由に閲覧・お持ち帰りいただけるようにしています。

弊社ホームページ上でも開示しています。

※2001年～2004年は環境報告書として発行、2005年より社会・環境報告書として発行

2001年版
（2001年7月発行）

2002年版
（2002年6月発行）

2003年版
（2003年6月発行）

2004年版
（2004年6月発行）

2005年版
（2005年6月発行）

ホームページ

弊社ホームページ上に「伊藤ハム環境保全活動の取り組み」を開設し、幅広く環境保全活動について情報開示しています。社会・環境報告書のほか、エコトピックスによる最新の環境活動の紹介や社会・環境報告書の請求もできるようになっています。また、お客様とのコミュニケーションを円滑に行うために、専用のメールアドレスを設けています。

ホームページ：
http://www.itoham.co.jp
専用メール：
eco@itoham.co.jp

環境フェアなどへの出展

弊社事業所が所在する自治体などで開催される環境フェアなどのイベントに出展し、環境保全活動や社会活動に関する情報を開示しています。

ワンワールド・フェスティバル

船橋市環境フェア

商品展示会

毎年1回、商品展示会を開催しています。その際、お得意先や従業員と家族に弊社の環境保全活動、社会活動に対する理解を深めていただくために、環境・社会活動に関する取り組みを紹介しています。

商品展示会

環境パネル

環境活動 Q&A

Q 社会活動や環境活動に対する意見や感想はどうやって伝えればいいの？

A 社会活動や環境活動に対するご意見やご感想は、本報告書に差し込んであるアンケート用紙をご利用の上お寄せください。また、弊社ホームページ上の「伊藤ハム環境保全活動の取り組み」内に専用のメールを設けていますので、そちらのフォームも利用していただけます。

従業員教育・地域とのコミュニケーション

従業員一人ひとりの環境保全意識を高め、「地球にやさしい」企業風土を醸成するために、社内外の環境教育と社内啓発活動を実施しています。また、ボランティア活動を通じて環境のことを学ぶ、環境ボランティア体験学習を実施しています。

環境教育

- 新入社員の環境教育
- 環境マネジメントシステム教育
- 工場における一般教育・専門教育
- 社内報「躍動」に環境関連記事掲載
- 職場に「環境情報掲示板」を設置
- 社外の環境関連教育・セミナーなど

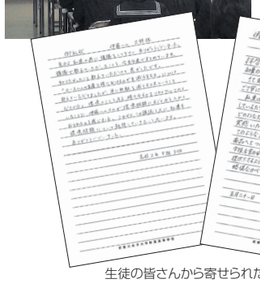
社内報

新入社員の環境教育

環境情報掲示板（西宮工場）

地域との交流

NPO法人「こども環境活動支援協会」（西宮市）の「環境学習支援プロジェクト2005」に参加し、環境学習「出前授業」を行いました。


生徒の皆さんから寄せられたお礼状

環境ボランティア体験学習

●課外授業「こうべ森の学校」

再度公園（神戸市）

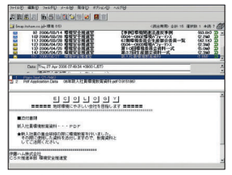
●クリーンアップ in 甲子園浜

甲子園浜（西宮市）

環境情報の開示及び共有化

従業員の環境保全に対する意識・関心を高めるため、社内イントラネットを利用して環境に関する情報やデータを開示しています。

社内ポータルサイトの記事


エアメール

伊藤ハムグループの環境データ

■ エネルギー等使用量の推移

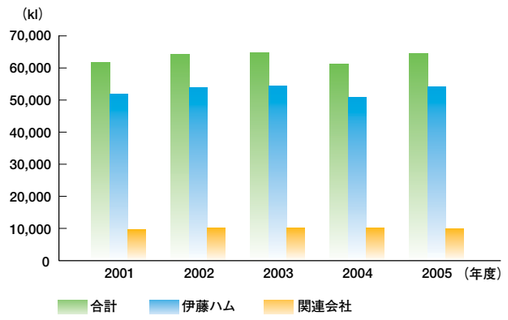
		合計				
		2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
電力	総量(千kWh)	154,470	161,990	163,853	154,522	159,497
	生産原単位(kWh/t)	1,146	1,087	1,116	1,183	1,202
燃料※1	総量(kl)	20,228	26,385	30,820	29,470	31,325
	生産原単位(l/t)	150	177	210	226	236
総エネルギー※2	総量(kl)	61,801	64,445	64,845	61,256	64,490
	生産原単位(l/t)	459	432	442	469	486
用水	総量(千m^3)	4,478	4,711	4,688	4,614	4,662
	生産原単位(m^3/t)	33	32	32	35	35

		伊藤ハム				
		2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
電力	総量(千kWh)	131,160	137,065	138,204	129,448	135,375
	生産原単位(kWh/t)	1,113	1,056	1,085	1,173	1,186
燃料※1	総量(kl)	16,631	20,728	23,671	22,319	24,526
	生産原単位(l/t)	141	160	186	202	215
総エネルギー※2	総量(kl)	52,027	54,155	54,569	50,923	54,307
	生産原単位(l/t)	441	417	428	462	476
用水	総量(千m^3)	3,761	3,918	3,878	3,803	3,889
	生産原単位(m^3/t)	32	30	30	34	34

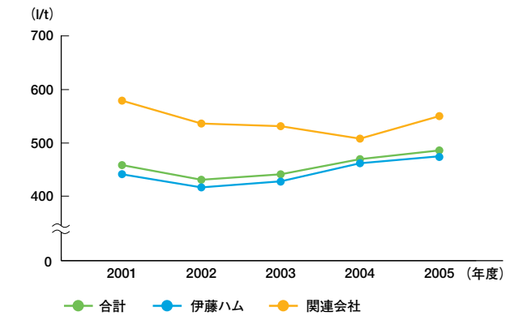
		関連会社				
		2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
電力	総量(千kWh)	23,310	24,925	25,650	25,073	24,123
	生産原単位(kWh/t)	1,382	1,298	1,324	1,233	1,303
燃料※1	総量(kl)	3,596	5,658	7,149	7,151	6,800
	生産原単位(l/t)	213	295	369	352	367
総エネルギー※2	総量(kl)	9,773	10,290	10,276	10,333	10,183
	生産原単位(l/t)	579	536	531	508	550
用水	総量(千m^3)	717	793	810	811	773
	生産原単位(m^3/t)	42	41	42	40	42

※1:原油換算　※2:総エネルギー:原油換算(購入電力+燃料+購入蒸気)

■ 総エネルギー使用量の推移



■ 総エネルギー生産原単位の推移



■ 二酸化炭素(CO_2)の排出量の推移　(単位:t-CO_2)

		合計				
		2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
電力		53,369	48,683	43,006	40,068	42,084
燃料	都市ガス	20,207	22,062	26,053	23,960	26,595
	LPガス	9,311	9,757	4,481	4,010	3,979
	重油	13,817	27,374	39,715	39,734	40,872
	灯油	42	35	40	43	38
	蒸気(購入分)	5,083	4,992	5,456	5,309	5,002
	合計	48,460	64,220	75,745	73,056	76,486
総計(電力+燃料)		101,829	112,903	118,751	113,124	118,570
生産原単位(kg-CO_2/t)		756	757	809	866	894

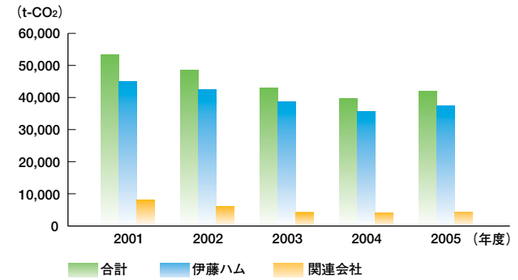
		伊藤ハム				
		2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
電力		45,048	42,443	38,794	35,782	37,526
燃料	都市ガス	20,207	22,062	26,053	23,960	26,595
	LPガス	7,913	8,177	2,856	2,309	2,564
	重油	5,640	13,754	22,062	22,169	23,926
	灯油	9	6	6	5	8
	蒸気(購入分)	5,083	4,992	5,456	5,309	5,002
	合計	38,852	48,991	56,433	53,752	58,094
総計(電力+燃料)		83,900	91,434	95,227	89,534	95,620
生産原単位(kg-CO_2/t)		712	704	748	812	838

		関連会社				
		2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
電力		8,322	6,240	4,213	4,286	4,559
燃料	都市ガス	—	—	—	—	—
	LPガス	1,398	1,580	1,625	1,701	1,415
	重油	8,177	13,620	17,653	17,564	16,946
	灯油	33	30	34	38	30
	蒸気(購入分)	—	—	—	—	—
	合計	9,608	15,230	19,312	19,303	18,391
総計(電力+燃料)		17,930	21,470	23,525	23,590	22,950
生産原単位(kg-CO_2/t)		1,063	1,118	1,215	1,160	1,239

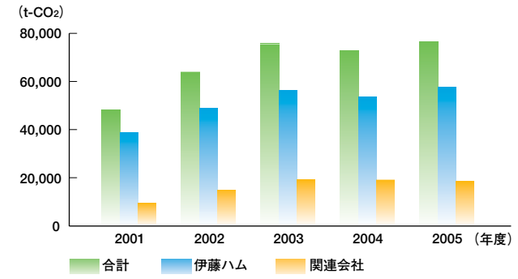
■ フロンガス(HCFC−22)排出量の推移　(単位:kg)

	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
HCFC−22	8,809	10,062	9,200	7,626	4,410

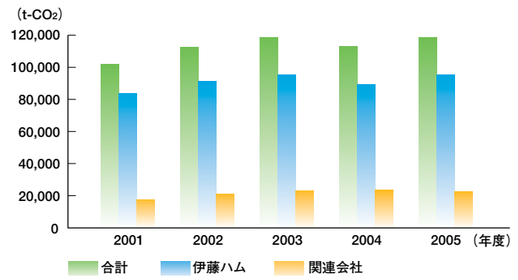
■ 二酸化炭素排出量の推移:電力



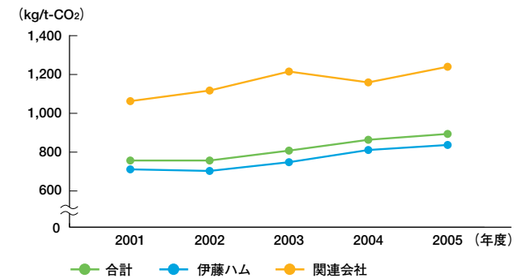
■ 二酸化炭素排出量の推移:燃料



■ 二酸化炭素排出量の推移:総計(電力+燃料)



■ 二酸化炭素排出量の推移:総計(電力+燃料)の生産原単位



廃棄物の排出量とリサイクル率の推移

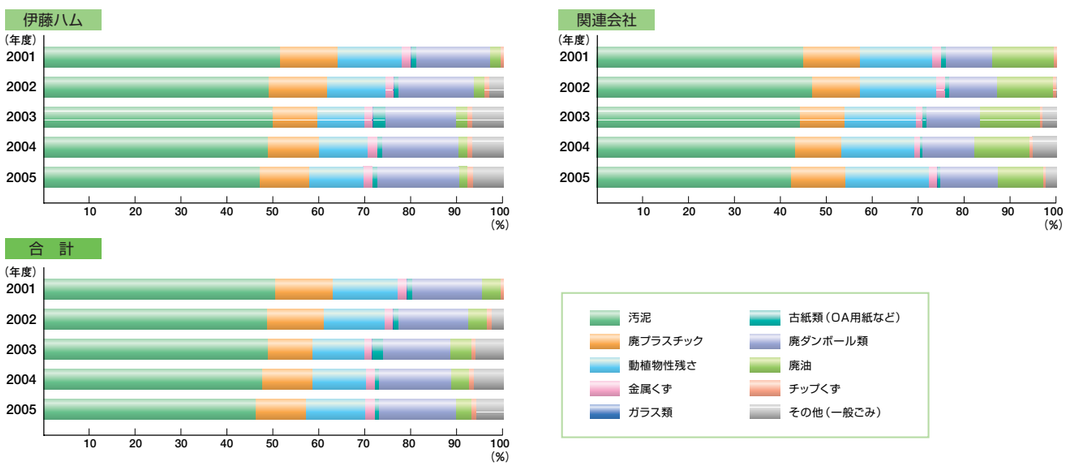
（単位:t）

	合計									
	2001年度		2002年度		2003年度		2004年度		2005年度	
	排出量	リサイクル率	排出量	リサイクル率	排出量	リサイクル率	排出量	リサイクル率	排出量	リサイクル率
汚　泥	12,335	82.1%	13,478	91.3%	13,493	99.9%	12,133	100.0%	11,423	100.0%
廃プラスチック	3,082	41.4%	3,429	49.1%	2,702	79.9%	2,789	91.6%	2,739	98.1%
動植物性残さ	3,470	49.4%	3,698	50.8%	3,122	83.1%	2,993	95.8%	3,215	99.6%
金属くず	485	96.2%	494	95.7%	452	99.7%	500	99.9%	485	100.0%
ガラス類	31	33.9%	32	27.8%	29	31.2%	9	53.9%	11	41.1%
古紙類（OA用紙など）	257	52.9%	276	60.5%	645	98.6%	221	98.3%	244	98.2%
廃ダンボール類	3.726	100.0%	4,250	100.0%	4,074	97.7%	3,981	99.9%	4,167	99.9%
廃　油	1,014	99.9%	1,122	100.0%	1,240	99.9%	1,015	100.0%	821	99.5%
チップくず	165	23.4%	262	53.1%	271	65.2%	270	67.6%	267	60.8%
その他（一般ごみ）	—	—	747	0.0%	1,699	2.8%	1,656	0.0%	1,473	0.0%
合　計	24,565	75.3%	27,788	79.3%	27,727	89.4%	25,565	91.7%	24,845	93.3%

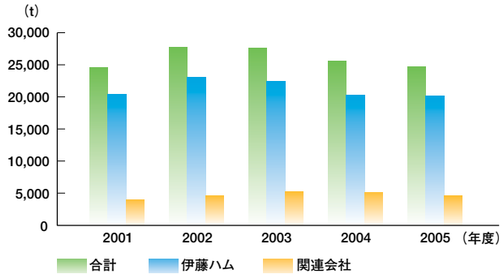
	伊藤ハム									
	2001年度		2002年度		2003年度		2004年度		2005年度	
	排出量	リサイクル率	排出量	リサイクル率	排出量	リサイクル率	排出量	リサイクル率	排出量	リサイクル率
汚　泥	10,482	96.5%	11,259	96.9%	11,158	99.9%	9,862	100.0%	9,460	100.0%
廃プラスチック	2,572	47.8%	2,934	51.3%	2,190	84.7%	2,260	91.8%	2,183	100.0%
動植物性残さ	2,823	41.1%	2,909	62.4%	2,297	89.4%	2,152	95.4%	2,367	99.8%
金属くず	404	95.5%	403	94.8%	378	99.7%	441	100.0%	403	100.0%
ガラス類	30	34.2%	32	27.2%	29	31.0%	9	52.8%	4	21.7%
古紙類（OA用紙など）	216	58.4%	232	62.1%	599	99.5%	194	100.0%	217	99.8%
廃ダンボール類	3,308	100.0%	3,755	100.0%	3,453	97.4%	3,381	100.0%	3,585	100.0%
廃　油	462	99.9%	547	100.0%	551	99.8%	379	100.0%	359	100.0%
チップくず	132	29.4%	231	57.8%	237	74.6%	237	71.1%	236	67.5%
その他（一般ごみ）	—	—	733	0.0%	1,532	1.3%	1,377	0.0%	1,360	0.0%
合　計	20,428	82.4%	23,035	86.1%	22,424	89.9%	20,290	91.4%	20,174	92.8%

	関連会社									
	2001年度		2002年度		2003年度		2004年度		2005年度	
	排出量	リサイクル率	排出量	リサイクル率	排出量	リサイクル率	排出量	リサイクル率	排出量	リサイクル率
汚　泥	1,853	0.7%	2,219	100.0%	2,335	99.9%	2,271	100.0%	1,963	100.0%
廃プラスチック	510	9.2%	495	91.8%	512	59.4%	529	90.9%	556	90.6%
動植物性残さ	647	85.5%	790	95.4%	826	65.6%	840	98.4%	848	98.9%
金属くず	81	99.9%	91	100.0%	75	99.8%	59	99.3%	82	100.0%
ガラス類	0.3	6.1%	1	52.8%	0.2	57.6%	0.3	85.6%	7	53.3%
古紙類（OA用紙など）	41	23.5%	44	100.0%	46	86.3%	27	86.0%	27	85.1%
廃ダンボール類	419	100.0%	495	100.0%	619	100.0%	600	99.4%	582	99.6%
廃　油	552	100.0%	575	100.0%	689	100.0%	636	100.0%	461	99.1%
チップくず	34	0.0%	30	71.1%	34	0.0%	34	42.8%	32	11.1%
その他（一般ごみ）	—	—	14	0.0%	167	17.0%	280	0.0%	113	0.0%
合　計	4,137	40.5%	4,754	91.4%	5,303	87.3%	5,276	93.0%	4,671	95.4%

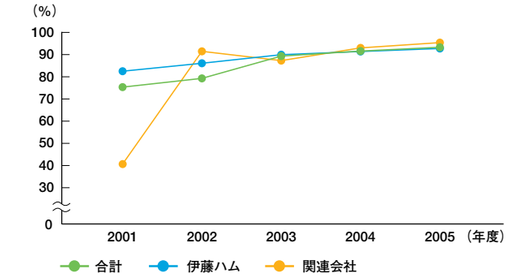
廃棄物種類別排出量の割合



廃棄物排出量の推移



リサイクル率の推移



ISO14001認証取得事業所

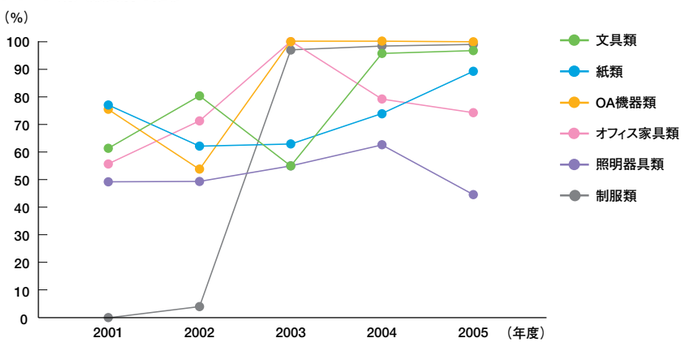
サイト名		認証機関	登録年月
伊藤ハム	西宮工場	日本環境認証機構（JACO）	2000年 2月
	東京工場	日本環境認証機構（JACO）	2000年 9月
	豊橋工場	日本環境認証機構（JACO）	2000年11月
	六甲工場	日本環境認証機構（JACO）	2001年10月
	九州工場	日本環境認証機構（JACO）	2002年 2月
	船橋工場	日本環境認証機構（JACO）	2003年 5月
伊藤ハムデイリー	東北工場	日本環境認証機構（JACO）	2004年 5月
	小樽工場	日本環境認証機構（JACO）	2006年 4月
サンキョーミート	有明ミート工場 ファーム事業ユニット 霧島ミート工場	日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	2002年 3月
伊藤ハム物流	仙台共配センター	財団法人日本品質保証機構(JQA)	2004年 3月
ロックデールビーフ社（オーストラリア）		NCS International Pty Ltd	2000年 3月
ファイブスタービーフ社（ニュージーランド）		SGS International Certification Services Pty Ltd	2001年 1月

グリーン購入の推移

対象品目			グリーン購入の割合（%）				
			2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
事務用品（金額ベース）	文具類	筆記具、ファイルなど	61.3	80.5	55.1	95.9	96.8
	紙類	コピー用紙、コンピューター用紙など	77.2	62.2	62.9	73.9	89.3
	合計		76.0	64.0	59.4	82.9	92.5
事務機器（数量ベース）	OA機器類	パソコン、コピー機、ファクシミリなど	75.4	53.8	100.0	100.0	100.0
	オフィス家具類	事務用机、椅子、OAテーブルなど	55.6	71.4	100.0	79.2	74.3
	合計		70.7	60.0	100.0	85.1	81.0
その他（数量ベース）	照明器具類	ランプ、蛍光灯器具など	49.3	49.4	55.0	62.6	44.6
	制服類	作業着など	—	4.0	97.2	98.5	99.0

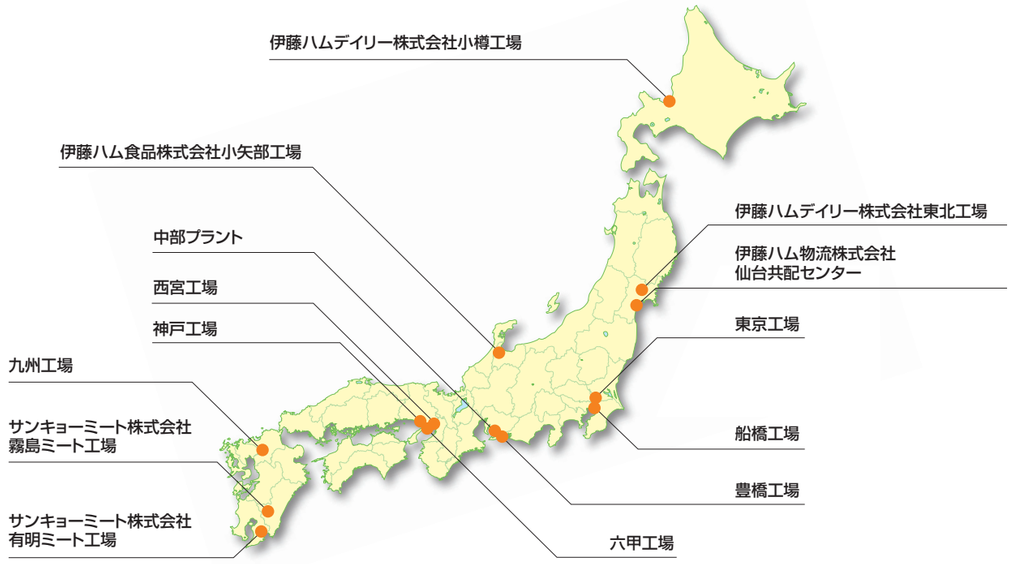
※制服類については2002年度より実施

グリーン購入品目別の推移



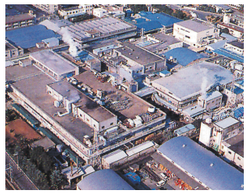
サイトデータ

※BOD、SSの規制値は最大値を表しています。



西宮工場

工場長　宍戸　裕



所在地
〒663-8586
兵庫県西宮市高畑町4-27

エネルギー使用量と二酸化炭素（CO_2）排出量（生産原単位）

	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
電力(kWh/t)	1,250	1,156	1,078	1,018	940
燃料(l/t)	187	192	187	182	187
総エネルギー(l/t)	467	432	414	396	383
用水(m^3/t)	30	28	27	27	26
CO_2(kg-CO_2/t)	715	670	643	617	602

排水の水質管理状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8~8.6	6.5~8.5	7.7	6.9	—
BOD(mg/l)	30	15	4.8	—	1.7
SS(mg/l)	30	20	10.0	—	3.6

廃棄物の排出量とリサイクル率

	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
排出量(t)	5,006	5,200	5,257	5,043	5,122
リサイクル率(%)	71.4	75.0	83.3	85.3	86.5

大気汚染物質の管理状況

	施設名	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx(t/y)	A&B(14基)	1.3	—	—	—
NOx(ppm)	A(12基)	60	45	31	28
	B(2基)	150	120	79	71
ばいじん(g/Nm^3)	A(12基)	0.05	0.02	0.002	0.001
	B(2基)	0.05	0.02	0.001	0.001

豊橋工場

工場長　岡本　時春

所在地
〒441-8686
愛知県豊橋市藤並町藤並73

エネルギー使用量と二酸化炭素（CO_2）排出量（生産原単位）

	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
電力(kWh/t)	1,415	1,356	1,340	1,345	1,396
燃料(l/t)	159	238	341	348	383
総エネルギー(l/t)	534	500	481	484	521
用水(m^3/t)	47	45	47	48	51
CO_2(kg-CO_2/t)	939	1,002	1,120	1,133	1,230

排水の水質管理状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8~8.6	6.5~8.5	7.9	7.4	—
BOD(mg/l)	100	20	7.7	—	5.5
SS(mg/l)	70	20	14.0	—	7.1

廃棄物の排出量とリサイクル率

	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
排出量(t)	2,479	2,883	3,056	2,941	2,775
リサイクル率(%)	76.4	80.2	92.4	94.6	100.0

大気汚染物質の管理状況

	施設名	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx(Nm^3/h)	A(7基)	2.2	1.0	0.048	0.039
	B(7基)	1.0	0.8	0.3	0.2
NOx(ppm)	A(7基)	—	180	110	81
	B(7基)	400	350	210	135
ばいじん(g/Nm^3)	A(7基)	—	0.1	0.002	0.002
	B(7基)	0.1	0.08	0.026	0.02

九州工場

工場長　原口　英雄

所在地
〒841-0202
佐賀県三養基郡基山町長野970-1

エネルギー使用量と二酸化炭素（CO_2）排出量（生産原単位）

	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
電力(kWh/t)	1,232	1,148	1,200	1,303	1,728
燃料(l/t)	224	305	392	432	595
総エネルギー(l/t)	550	502	509	555	741
用水(m^3/t)	53	44	41	48	62
CO_2(kg-CO_2/t)	959	1,021	1,075	1,170	1,582

排水の水質管理状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8~8.6	6.0~8.5	8.1	7.5	—
BOD(mg/l)	30	25	4.5	—	2.5
SS(mg/l)	25	20	20.0	—	7.4

廃棄物の排出量とリサイクル率

	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
排出量(t)	3,614	3,936	3,609	2,927	2,542
リサイクル率(%)	90.0	91.4	93.4	93.8	99.9

大気汚染物質の管理状況

	施設名	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx(Nm^3/h)	A(2基)	2.69	0.0021	<0.0001	<0.0001
	B(6基)	2.0	1.0	0.07	0.06
NOx(ppm)	A(2基)	150	140	79	72
	B(6基)	950	750	840	728
ばいじん(g/Nm^3)	A(2基)	0.1	0.006	0.001	0.001
	B(6基)	0.4	0.05	0.018	0.011

六甲工場

工場長　上田　博幸

所在地
〒658-0033
兵庫県神戸市東灘区向洋町西5-7

エネルギー使用量と二酸化炭素（CO_2）排出量（生産原単位）

	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
電力(kWh/t)	1,669	1,634	1,597	1,653	1,493
燃料(l/t)	144	144	145	141	154
総エネルギー(l/t)	586	577	568	579	550
用水(m^3/t)	26	26	26	27	27
CO_2(kg-CO_2/t)	856	844	832	846	811

排水の水質管理状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8~8.6	5.8~8.6	7.6	6.9	—
BOD(mg/l)	200	180	55.0	—	12.0
SS(mg/l)	100	90	10.0	—	3.7

廃棄物の排出量とリサイクル率

	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
排出量(t)	1,138	853	693	646	706
リサイクル率(%)	48.4	61.4	85.1	86.4	80.4

大気汚染物質の管理状況

	施設名	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx(K値)	A(4基)	1.17	—	—	—
NOx(ppm)	A(4基)	150	40	22	19
ばいじん(g/Nm^3)	A(4基)	0.1	0.02	0.002	0.002

東京工場

工場長　日下　秀

所在地
〒277-8586
千葉県柏市根戸1-3

エネルギー使用量と二酸化炭素（CO_2）排出量（生産原単位）

	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
電力(kWh/t)	976	946	959	1,006	979
燃料(l/t)	135	131	137	137	138
総エネルギー(l/t)	394	381	391	403	398
用水(m^3/t)	34	34	33	33	33
CO_2(kg-CO_2/t)	593	574	590	607	600

排水の水質管理状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8~8.6	5.8~8.6	8.0	7.3	—
BOD(mg/l)	10	8	10.0	—	4.1
SS(mg/l)	20	16	14.0	—	9.4

廃棄物の排出量とリサイクル率

	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
排出量(t)	5,593	6,250	6,218	6,056	6,078
リサイクル率(%)	99.98	99.98	99.98	99.88	99.9

大気汚染物質の管理状況

	施設名	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx(Nm^3/h)	A(2基)	0.025	—	—	—
	B(11基)	0.272	—	—	—
NOx(ppm)	A(2基)	150	120	39	32
	B(11基)	150	120	83	33
ばいじん(g/Nm^3)	A(2基)	0.1	0.08	0.003	0.002
	B(11基)	0.1	0.08	0.004	0.002

船橋工場

工場長　柴山　育朗

所在地
〒273-0014
千葉県船橋市高瀬町24-28

エネルギー使用量と二酸化炭素（CO_2）排出量（生産原単位）

	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
電力(kWh/t)	1,499	1,461	1,538	1,434	1,553
燃料(l/t)	65	72	77	69	73
総エネルギー(l/t)	648	630	676	620	663
用水(m^3/t)	34	33	34	30	30
CO_2(kg-CO_2/t)	1,169	1,133	1,225	1,116	1,188

排水の水質管理状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8~8.6	5.8~8.6	7.4	6.8	—
BOD(mg/l)	350	200	190.0	—	88.9
SS(mg/l)	80	70	38.0	—	18.8

廃棄物の排出量とリサイクル率

	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
排出量(t)	2,051	2,150	2,555	2,677	2,256
リサイクル率(%)	48.6	52.4	75.2	78.7	77.6

神戸工場

工場長　田中　幸二郎

所在地
〒658-0033
兵庫県神戸市東灘区向洋町西6-20-1

エネルギー使用量と二酸化炭素（CO_2）排出量（生産原単位）

	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
電力（kWh/t）	—	—	—	—	1,274
燃料（l/t）	—	—	—	—	145
総エネルギー（l/t）	—	—	—	—	483
用水（m^3/t）	—	—	—	—	16
CO_2（kg-CO_2/t）	—	—	—	—	718

※2005年4月より稼動

排水の水質管理状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	5.8～8.6	7.2	6.5	—
BOD(mg/l)	2000	2000	160.0	—	57.7
SS(mg/l)	2000	2000	200.0	—	71.0

廃棄物の排出量とリサイクル率

	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
排出量（t）	—	—	—	—	637
リサイクル率（%）	—	—	—	—	86.6

大気汚染物質の管理状況

	施設名	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx（K値）	A（6基）	—	—	—	—
NOx（ppm）	A（6基）	150	150	56	31
ばいじん（g/Nm^3）	A（6基）	0.1	0.1	0.002	0.001

中部プラント

工場長　田中　正仁

所在地
〒441-8077
愛知県豊橋市神野新田町トノ割6-1

エネルギー使用量と二酸化炭素（CO_2）排出量（生産原単位）

	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
電力（kWh/t）	—	—	—	—	2,267
燃料（l/t）	—	—	—	—	286
総エネルギー（l/t）	—	—	—	—	886
用水（m^3/t）	—	—	—	—	21
CO_2（kg-CO_2/t）	—	—	—	—	1,504

※2005年9月より稼動

排水の水質管理状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	5.7～8.5	7.4	6.3	—
BOD(mg/l)	25	23	17.0	—	9.6
SS(mg/l)	30	28	25.0	—	16.3

廃棄物の排出量とリサイクル率

	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
排出量（t）	—	—	—	—	59
リサイクル率（%）	—	—	—	—	72.2

大気汚染物質の管理状況

	施設名	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx（Nm^3/h）	A（1基）	—	0.031	0.02	0.02
	B（1基）	—	0.031	0.02	0.02
NOx（ppm）	A（1基）	—	170	63	63
	B（1基）	—	170	62	62
ばいじん（g/Nm^3）	A（1基）	—	0.2	0.018	0.018
	B（1基）	—	0.2	0.026	0.026

伊藤ハムデイリー株式会社　東北工場

工場長　佐々木　勲

所在地
〒987-2195
宮城県栗原市高清水来光沢20

エネルギー使用量と二酸化炭素（CO_2）排出量（生産原単位）

	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
電力（kWh/t）	1,549	1,430	1,467	1,324	1,382
燃料（l/t）	243	351	452	421	454
総エネルギー（l/t）	654	591	583	545	595
用水（m^3/t）	47	45	42	44	47
CO_2（kg-CO_2/t）	1,201	1,267	1,397	1,303	1,418

排水の水質管理状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	5.8～8.6	8.2	7.5	—
BOD(mg/l)	160	120	13.0	—	4.7
SS(mg/l)	200	100	41.0	—	9.4

廃棄物の排出量とリサイクル率

	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
排出量（t）	3,681	4,316	4,851	4,807	4,199
リサイクル率（%）	38.7	58.7	87.8	93.7	96.4

大気汚染物質の管理状況

	施設名	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx（Nm^3/h）	A（5基）	0.98	0.5	0.04	0.03
	B（1基）	8.31	0.5	0.11	0.1
	C（6基）	3.16	2.53	0.07	0.05
NOx（ppm）	A（5基）	180	150	110	96
	B（1基）	180	150	90	83
	C（6基）	950	900	940	890
ばいじん（g/Nm^3）	A（5基）	0.3	0.1	0.011	0.008
	B（1基）	0.3	0.1	0.022	0.016
	C（6基）	0.1	0.08	0.02	0.01

伊藤ハムデイリー株式会社　小樽工場

工場長　高梨　正敏

所在地
〒061-3271
北海道小樽市銭函5-61-3

エネルギー使用量と二酸化炭素（CO_2）排出量（生産原単位）

	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
電力（kWh/t）	775	697	684	725	1,094
燃料（l/t）	119	106	108	120	125
総エネルギー（l/t）	324	291	289	313	415
用水（m^3/t）	26	20	18	20	25
CO_2（kg-CO_2/t）	601	537	537	586	731

排水の水質管理状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.7～8.7	6.5～8.5	7.8	7.3	—
BOD(mg/l)	300	150	62.0	—	36.9
SS(mg/l)	300	150	89.0	—	46.1

廃棄物の排出量とリサイクル率

	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
排出量（t）	233	220	221	213	240
リサイクル率（%）	72.0	99.0	99.98	99.98	100.0

大気汚染物質の管理状況

	施設名	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx（Nm^3/h）	A（2基）	0.63	0.5	0.2	0.1
NOx（ppm）	A（2基）	180	150	131	105
ばいじん（g/Nm^3）	A（2基）	0.3	0.1	0.02	0.01

伊藤ハム食品株式会社　小矢部工場

工場長　山本　發生

所在地
〒932-0131
富山県小矢部市名畑5068

エネルギー使用量と二酸化炭素（CO_2）排出量（生産原単位）

	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
電力（kWh/t）	1,122	1,149	1,077	1,160	1,102
燃料（l/t）	154	163	168	161	157
総エネルギー（l/t）	451	468	477	468	449
用水（m^3/t）	35	41	40	32	34
CO_2（kg-CO_2/t）	817	853	873	850	820

排水の水質管理状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	6.0～8.0	6.0～8.0	7.3	6.9	—
BOD(mg/l)	50	10	3.2	—	1.7
SS(mg/l)	60	30	9.0	—	5.3

廃棄物の排出量とリサイクル率

	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
排出量（t）	221	218	230	256	231
リサイクル率（%）	36.5	36.2	65.7	75.1	71.1

大気汚染物質の管理状況

	施設名	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx（Nm^3/h）	A（2基）	2.1	0.1	0.08	0.06
	B（1基）	2.1	0.1	0.08	0.07
NOx（ppm）	A（2基）	—	150	86	69
	B（1基）	—	150	54	48
ばいじん（g/Nm^3）	A（2基）	0.2	0.1	0.02	0.02
	B（1基）	0.2	0.1	0.02	0.02

サンキョーミート株式会社　有明ミート工場

第1工場長　楠本　幸二　／　第2工場長　平河　明

所在地
〒899-7402
鹿児島県志布志市有明町野井倉6965

エネルギー使用量と二酸化炭素（CO_2）排出量（生産原単位）

	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
電力（kWh/t）	302	257	271	268	251
燃料（l/t）	23	22	78	81	82
総エネルギー（l/t）	104	65	98	101	96
用水（m^3/t）	19	15	14	15	14
CO_2（kg-CO_2/t）	172	118	241	248	243

排水の水質管理状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	6.0～8.0	7.7	7.4	—
BOD(mg/l)	30	15	5.0	1.0	2.4
SS(mg/l)	40	15	10.0	4.0	5.0

廃棄物の排出量とリサイクル率

	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
排出量（t）	785	976.2	1,184	1,273	1223
リサイクル率（%）	99.1	99.7	97.4	88.6	87.3

大気汚染物質の管理状況

	施設名	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx（Nm^3/h）	A（5基）	1.8	1	0.082	0.065
	B	—	—	—	—
NOx（ppm）	A（5基）	—	—	76	58
	B	—	—	—	—
ばいじん（g/Nm^3）	A（5基）	0.3	0.2	0.014	0.008
	B	—	—	—	—

サンキョーミート株式会社　霧島ミート工場

工場長　岸　重年

所在地
〒886-0004
宮崎県小林市細野2516

エネルギー使用量と二酸化炭素（CO_2）排出量（生産原単位）

	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
電力（kWh/t）	214	208	198	215	238
燃料（l/t）	12	11	12	11	11
総エネルギー（l/t）	69	67	64	68	74
用水（m^3/t）	4	3	3	3	3
CO_2（kg-CO_2/t）	108	104	102	105	114

排水の水質管理状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	6.0～8.0	7.8	6.8	—
BOD(mg/l)	30	20	21.0	0.4	6.4
SS(mg/l)	40	20	21.0	0.5	5.4

廃棄物の排出量とリサイクル率

	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
排出量（t）	112	116	123	113	111
リサイクル率（%）	81.8	85.8	88.4	84.4	81.0

伊藤ハム物流株式会社

社長　平澤　敏一

仙台共配センター

所在地
〒983-0034
宮城県仙台市宮城野区扇町7-7-10

エネルギー使用量と二酸化炭素（CO_2）排出量

	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
電力（kWh/t）	1,359,893	1,384,841	1,406,256	1,708,878	1,923,516
ガソリン（l）	—	—	22,000	22,000	23,000
軽油（l）	—	—	694,584	700,679	699,486
CO_2（kg-CO_2）	—	—	1,873,901	1,889,896	1,889,087

電力の対象は仙台共配センター、青森共配センター、秋田DC、盛岡共配センター、山形共配センター、東海共配センター、福知山共配センター

ガソリン、軽油使用量は全営業所の合計

— 部分はデータ未集計
CO_2排出量算定式：ガソリン換算値=燃料使用量（l）×単位発熱量34.6MJ/l×排出係数0.0671kgCO_2/MJ
軽油換算値=燃料使用量（l）×単位発熱量38.2MJ/l×排出係数0.0687kgCO_2/MJ

廃棄物の排出量とリサイクル率

	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
排出量（t）	—	—	7	6	5
リサイクル率（%）	—	—	45	50	52

対象：仙台共配センター　— 部分はデータ未集計

伊藤ハムグループはさまざまな場所で環境をまもる活動をしています

私たちはハム・ソーセージや調理食品をつくることによって、地球環境にいろいろな負担を与えていることを自覚しています。伊藤ハムのグループで働いている従業員は、その負担を小さくするため、工場やオフィスだけでなく、地域や学校などでさまざまな活動を行っているのです。

海・山・川・街で…

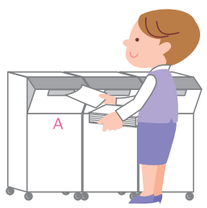
社会に役立つ活動をいろいろ行っています。海岸や川のごみを拾ったり間伐を行って森を再生する活動をしたり、また、ユニセフへの募金活動なども行っています。

学校で…

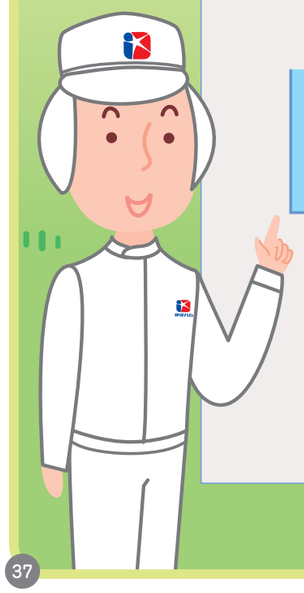
子どもたちに環境や自然をまもることの大切さを伝える活動を進めています。2005年度は高校や小学校に出向いて行う環境学習「出前授業」などを行いました。

オフィスで…

省エネルギータイプの照明や複写機などの機械を設置したり、リサイクルしやすい事務用品を購入したりする「グリーン購入」を積極的に進めています。



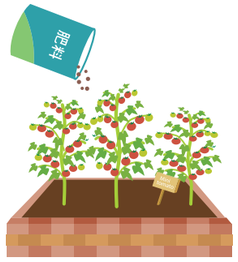
ごみの種類ごとに専用のごみ箱やリサイクルボックスをおいて、リサイクルのさまたげとならないよう、きっちりと分けています。



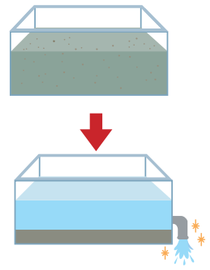
工場で…

伊藤ハム

地球温暖化の原因となる二酸化炭素（CO_2）をなるべく出さないようにするため、ハム・ソーセージを作るときに使う電気や燃料・水などの量をできるだけ少なくしています。



ハム・ソーセージ、調理食品などをつくるときに出てくる食品ごみの一部を野菜・くだものを育てる有機肥料などに再生（リサイクル）しています。



汚れた水はいろいろな設備を使って汚れを取り除き、キレイにして川や下水道に流しています。

工場では、ごみをリサイクルしやすいように分別して集めています。リサイクルできない一部のごみは専門の業者で焼却、埋め立てなどの処理をしています。

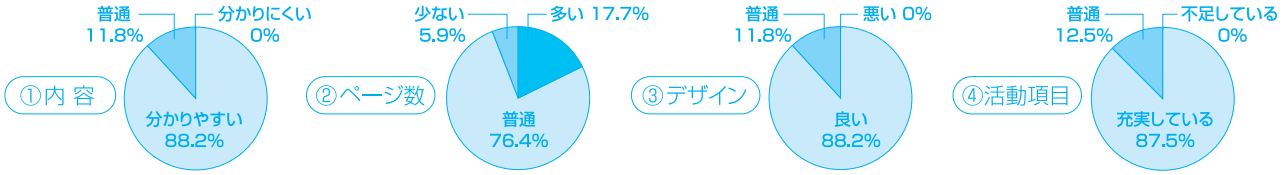
「2005年社会・環境報告書」アンケート結果について

伊藤ハム「2005年社会・環境報告書」（2005年6月発行）のアンケートに多数お答えいただき、誠にありがとうございました。皆様からお寄せいただきました貴重なご意見・ご感想は、環境保全活動や社会・環境報告書の制作に活用させていただきました。今年度も裏面が「2006年社会・環境報告書」アンケート用紙となっております。本報告書を読まれてのご感想やお気づきの点などございましたら、ご記入の上ご送付いただければ幸いです。皆様からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考にさせていただき、環境保全活動の取り組みや社会・環境報告書の制作を進めてまいります。　2006年6月

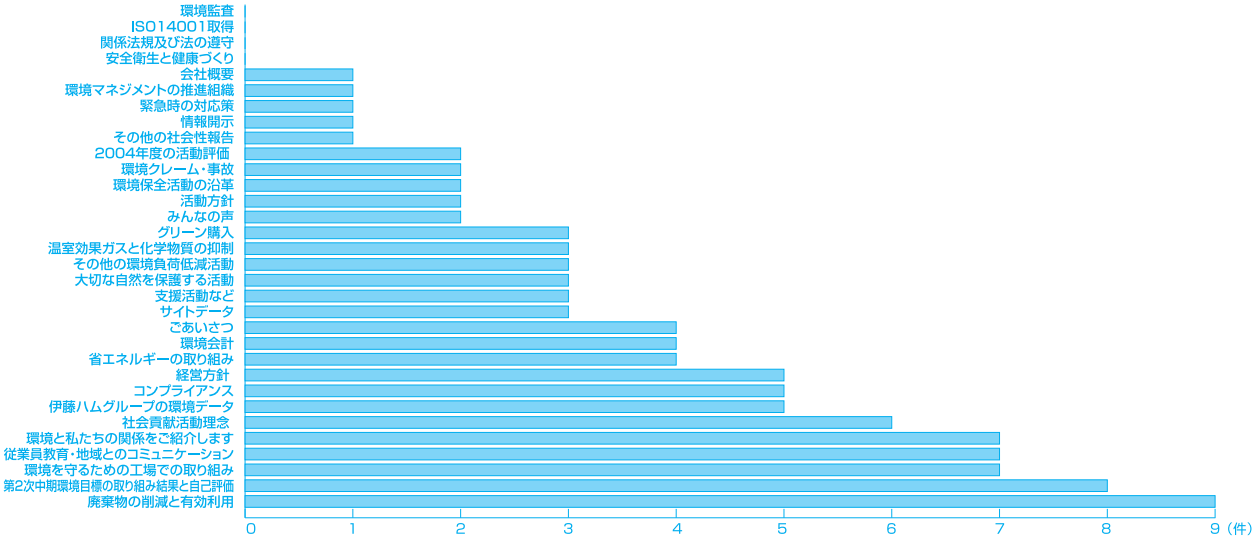
伊藤ハム株式会社　CSR推進本部 環境安全推進室　〒663−8586　兵庫県西宮市高畑町4番27号
TEL：0798−66−1289　FAX：0798−66−1302

「2005年社会・環境報告書」アンケート集計結果（回収数17通）

1.「2005年社会・環境報告書」の評価グラフ



2.「2005年社会・環境報告書」の中で興味を持った内容　（件数:回答総数104件の内訳）



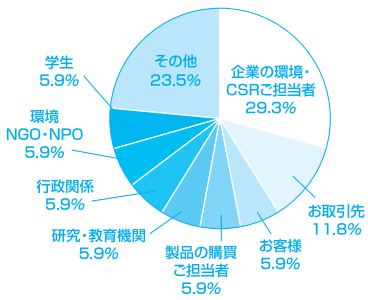
3.環境保全活動について

③普通　0%
④あまり評価できない　0%
⑤全く評価できない　0%

4.社会活動について

③普通　0%
④あまり評価できない　0%
⑤全く評価できない　0%

5.社会・環境報告書をどのような お立場でお読みになられていますか。



6.「2005年社会・環境報告書」や環境保全活動、社会活動についてのご意見の一部をご紹介します。

- 環境改善に全社員が前向きに取り組んでいると思います。
- 地域とのコミュニケーションを一層充実させてください。
- 今後も廃棄物のリサイクルに積極的に取り組まれることを望みます。
- 地道な活動が良くわかりました。マスコミ受けを狙わない今まで通りの地域に密着した活動を期待します。
- 省エネルギー、廃棄物削減に対し、一層の活動を期待しております。
- 近隣の住宅に住む人の意見を載せてほしい。
- コンプライアンスの強化、社会貢献活動の広範囲への展開、健康で安全な職場環境づくりを期待します。
- 社員の方々の環境保全の意識をより一層高め、それにより御社と地域が一体となって活動の輪を広げていかれることを期待しています。
- 子ども向けの「工場での取り組み」は大変わかりやすい。
- 行動指針に沿った社会貢献活動が行われている点は評価できる。
- 「ハムができるまで」という具体的な例をあげるなど、子どもにもわかるリサイクルの説明のページがあるといい。
- 非常に広範囲にわたり詳しく記述されており、良かったと思います。ただ、反面、アピールされたい点を強調された方がよいのではないでしょうか。
- 作成に多大な時間を費やされた努力が感じられました。
- 環境マネジメントの推進組織スタッフの皆さんの地道な努力が結果につながってまいりますのでがんばってください。
- 自然を保護する活動とその意識付け、クリーンアップ活動の継続を望みます。
- さらなる飛躍のため経営情報を開示し、社内外の方々の声に耳を傾け、顧客のみならず地域・社会に根ざした御社の企業理念に非常に共感できました。

「2006年 社会・環境報告書」アンケート

● ご意見・ご感想をお聞かせください。●

伊藤ハム株式会社
CSR推進本部 環境安全推進室　行き
〒663−8586 兵庫県西宮市高畑町4番27号
FAX　0798-66-1302

Q1. 本報告書をお読みになっての評価をお聞かせください。

●内容	□分かりやすい	□普通	□分かりにくい
●ページ数	□多い	□適当	□少ない
●デザイン	□良い	□普通	□悪い
●活動項目	□充実している	□普通	□不足している

Q2. 本報告書の中で、興味をもった内容についてお聞かせください。（複数回答可）

会社基本項目　1）会社概要　2）ごあいさつ　3）コンプライアンス

社会性報告　4）お客様の健康と豊かな食文化への貢献　5）森林保護活動　6）社会貢献活動　7）労働安全衛生　8）健康づくり

環境報告　9）伊藤ハムの事業活動と環境とのかかわり　10）第2次中期環境目標の取り組み結果と自己評価
11）環境保全活動の沿革　12）環境マネジメントの推進組織　13）環境監査の実施　14）ISO14001認証取得
15）グリーン購入の推進　16）関係法規及び法の遵守　17）環境管理へのお問い合わせ　18）緊急時の対応策　19）環境会計
20）省エネルギーの取り組み　21）廃棄物の削減と有効利用　22）温室効果ガスと化学物質・水質汚濁物質の排出抑制
23）その他の環境負荷低減活動　24）情報開示　25）従業員教育・地域とのコミュニケーション

環境データ集　26）伊藤ハムグループの環境データ　27）サイトデータ（伊藤ハム・関連会社）
28）伊藤ハムグループはさまざまな場所で環境をまもる活動をしています

Q3. 弊社の社会活動についてどのようにお感じになりましたか。

1）非常に評価できる　2）評価できる　3）普通　4）あまり評価できない
5）全く評価できない［その理由：　　］

Q4. 弊社の社会活動について期待されることは何ですか。

Q5. 弊社の環境保全活動についてどのようにお感じになりましたか。

1）非常に評価できる　2）評価できる　3）普通　4）あまり評価できない
5）全く評価できない［その理由：　　］

Q6. 弊社の環境保全活動について期待されることは何ですか。

Q7. 本報告書をどのようなお立場でお読みになりましたか。

□お客様　□お取引先　□製品の購買ご担当者　□株主　□金融・投資機関　□研究・教育機関　□報道関係
□行政関係　□環境NGO・NPO　□伊藤ハムグループ事業所の近隣にお住まいの方　□学生　□環境の専門家
□企業の環境・CSRご担当者　□その他（　　）

Q8. 本報告書の内容や社会活動、及び環境保全活動に関するご意見・ご感想をお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。
お答えいただきましたアンケートは、個人情報を除き統計データとして利用させていただきます。
個人情報に関しましては、ご希望により次年度の「社会・環境報告書」の発送にのみ利用し、
ご本人の承諾がない限り、第三者に開示することは一切ありません。

お名前		性別	男・女	年齢		ご職業・勤務先	
ご連絡先	ご住所	〒					
	TEL						

●次年度の「社会・環境報告書」の送付を希望されますか？　□はい　□いいえ

伊藤ハム

社会活動、環境保全活動などについてのお問い合わせ先

伊藤ハム株式会社
CSR推進本部環境安全推進室
〒663-8586　兵庫県西宮市高畑町4番27号
TEL：(0798)66-1289
FAX：(0798)66-1302
URL：http://www.itoham.co.jp
E-mail：eco@itoham.co.jp

発行　2006年6月

Waterless Printing. Naturally.
有害な廃液の出ない水なし平版印刷方式で、印刷しています。

R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています。

PRINTED WITH SOY INK
アロマフリー型大豆油インキを使用しています。

次回発行予定　2007年6月